設置の趣旨等を記載した書類

目次

Ⅰ　設置の趣旨及び必要性 …… 1
Ⅱ　学部学科等の特色 …… 5
Ⅲ　学部、学科等の名称及び学位の名称 …… 7
Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色 …… 8
Ⅴ　教員組織の編成の考え方及び特色 …… 15
Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 …… 17
Ⅶ　施設・設備等の整備計画 …… 20
Ⅷ　入学者選抜の概要 …… 22
Ⅸ　企業実習（インターンシップ含む）や海外語学研修等の具体的計画 …… 27
Ⅹ　編入学定員を設定する場合の具体的計画 …… 28
ⅩⅠ　管理運営 …… 29
ⅩⅡ　自己点検・評価 …… 31
ⅩⅢ　情報の公表 …… 32
ⅩⅣ　教育内容等の改善を図るための組織な研修等 …… 34
ⅩⅤ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 …… 35

Ⅰ　設置の趣旨及び必要性

１．学科を設置する必要性

（１）本学の沿革と経緯

東京基督教大学は、1990(平成2)年4月に千葉県印旛郡印西町（現印西市）に設置された。前身校の東京キリスト教短期大学（東京基督教短期大学）は、1966(昭和41)年に東京都国立市に設置され、1980(昭和55)年に日本基督神学校及び共立女子聖書学院を、設置者の学校法人東京キリスト教学園のもとに合同した。共立女子聖書学院の歴史は、1881(明治14)年に横浜に設立された偕成伝道女学校にまで遡ることができる。

東京基督教大学は、神学部神学科及び国際キリスト教福祉学科(設置時は国際キリスト教学科)において、プロテスタント宗教改革の伝統に立つ教育理念に則り、キリスト教世界観に基づくリベラル・アーツ教育と神学教育の統合により、教会と社会に仕えるクリスチャンの教育を続け、今年30周年を迎えた。

学校法人東京キリスト教学園理事会は、2020(令和2)年3月24日に、2021(令和3)年度開設を目指して東京基督教大学神学部の神学科と国際キリスト教福祉学科を廃止し、総合神学科を設置する届出を行うことを議決した。この学科再編は、教育研究組織、教員組織、教育課程を全面的に検証して整理・統合し、社会の変化に対応して将来の本学の基礎を強固にしようとするものである。

経緯としては、2015(平成27)年4月から全学を挙げて教職協働で大学経営改革に着手し、同年「７つの要点項目」と「行動目標４分野」を定め**【参考資料①：教職員プロジェクト会議資料】**、2017(平成29)年には改革のコンセプトとして「Stand in the Gap 破れ口にキリストの平和を」を定めた。2018(平成30)年から現在の２学科を１学科に統合する計画の具体的な検討を開始し、同年10月23日の理事会でこの計画の骨子を決定した。その後の1年半をかけて計画を練り、2019(令和元)年10月に大学設置・学校法人審議会運営委員会への事前相談を行い、今回の届出に至ったものである。

（２）１学科への再編と総合神学科設置の趣旨

本学は神学部のみの単一学部大学であり、現在、神学科に2専攻（神学専攻、教会教職専攻）と2コース（アジア神学コース、シニアコース）、国際キリスト教福祉学科に2専攻（国際キリスト教学専攻、キリスト教福祉学専攻）が設置されている。

「建学の精神」には、「プロテスタント福音主義信仰に立ち、教派を超えて21世紀の教会と社会に奉仕する世界宣教の働き人を育成するために、実践的な神学教育を施す」とある**【参考資料②：建学の精神】**。これに基づき、開学以来、「キリスト者である男女を牧師、伝道師、宣教師及びその他のキリスト教奉仕者として養成すること」（学則）を目的とし、国内外の教派・教団を超えたキリスト教会の支持を受けつつ、国際性とキリスト教的教養及び実践力を重視した神学教育を行ってきた。これまでにおよそ1000名の卒業生を、国内外の教会、宣教団体、NPO/NGO、キリスト教系及び一般の企業等に輩出している。

2001(平成13)年に英語で教授される授業科目のみで学位を取得できるアジア神学コース（ACTS-ES）を神学科に設置し、2008(平成20)年には介護福祉士学校の指定を受け、国際キリスト教学科の学科名称を「国際キリスト教福祉学科」に変更した。また、同一法人により隣接地に併設され、大卒者への神学専門教育を行っていた東京基督神学校（専修学校専門課程神学科・音

楽科）の募集を停止し、2010(平成22)年から、神学部神学科3年次編入による教会教職課程を設置した。そして、2011(平成23)年に教会音楽専攻科を設け、2012(平成24)年に大学院神学研究科修士課程を、2014(平成26)年に同博士後期課程を設置した。

この間、グローバル化と社会の多様化に伴い学生の必要も多様化してきた。これに対し、上記のように2学科の教育課程を拡大させ教育内容を充実させることで対応してきた。また、2学科の初年次に共通科目を提供して学生支援と教育の基礎作りに努めてきた。その中で、理想とする教育を実現するため、大学の規模に比して拡大されたカリキュラムを整理、統合する必要を強く認識するようになってきた。また、2学科における教員配置と学生数の不均衡という課題の解決には、抜本的な改革を直ちに行う必要があることも明らかになった。

そこで、現在の校地校舎において、教育研究組織と教員組織を維持しつつ、教育課程を整理統合し、なおかつ多様な学習歴を持つ学生の必要に応えるため、2学科を廃止し、2021(令和3)年に神学部「総合神学科」を設置して「建学の精神」に基づく教育を発展させることにした。

なお、大学院神学研究科と教会音楽専攻科は、現在提供している教育を継続する。

（３）１学科への移行の必要性

現在の2学科を1学科に統合する必要性は、第一に多様な学生の必要に応える教育を提供するためであり、第二に現状の大学及び２学科における課題を解決するためである。

第一に、学生の状況であるが、転科・転専攻者がこの10年で約30名おり、2019(令和元)年度においては6名が転科・転専攻している。退学者も増加傾向にあって直近5年の平均は6名である。また、現在、2学科の新入生には初年次に共通科目を提供しているが、これを2年間に延長して、多様な新入生への学生支援を充実して大学生活に定着させ、2年間共通科目を修めた後に、個々の関心や希望する進路にあわせた専攻を選択できるようにすることが、学生の必要に応えることになると考える。

第二に、学科ごとの定員管理が課題である。国際キリスト教福祉学科に介護福祉士学校を設置したのは、福祉に関する人材育成が「教会と社会に奉仕する…働き人を育成する」という建学の精神に則っており、また、設置以前から福祉分野に就職を希望する学生がいたためである。しかし、比較的定員が充足している神学科に対し、国際キリスト教学科キリスト教福祉学専攻の入学定員充足率は直近の5年平均で0.48であり、課題があった（定員充足率等については「学生の確保の見通し等に関する書類」にて詳述）。総合神学科の設置により、1学科での定員管理となり、人数の多寡に関わりなく、福祉に関する人材育成の継続が可能である。

また、教員配置と学生数の不均衡の課題がある。2020(令和2)年度の教員数は神学科12名（教授7名、准教授1名、助教4名）、国際キリスト教福祉学科9名(教授2名、准教授6名、講師1名)であるが、学生数は神学科100名・国際キリスト教福祉学科48名と神学科がほぼ倍であり、2学科における教員配置と学生数の不均衡が生じている。また、国際キリスト教福祉学科の教授数の不足も課題である。この問題を1学科に移行することによって解消する。

２．教育研究上の目的及び育成する人材像

（１）教育目標と育成する人材像

新学科設置に際し、新たに定める神学部及び総合神学科の「教育目標」は以下の通りである。従来の教育目標**【参考資料③：現在の学部・学科の教育目標等】**及び建学の精神**【参考資料②：建学の精神】**を踏まえ（下線部参照）、本学の目指す「教会と社会に仕えるクリスチャンの養成」を目指すものである。

東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。

また、ディプロマポリシーは以下の通りである。

東京基督教大学では、所定の期間在学し、本学の教育目標に沿って設定された授業科目を履修して、基準となる単位を修得し、卒業判定に合格することが学位授与の要件となっています。学生のために準備された学びには、講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチが含まれます。

以下の基準を満たしている者に学位が授与されます。

1．プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。
2．東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。
3．修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。
4．クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。
5．神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

人材養成像とディプロマポリシーの相関を、以下の通り示す。

人材養成像（教育目標）	ディプロマポリシー
プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、	1．プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。
教派を超えて教会と社会で、	2．東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。
世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。	4．クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。 5．神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。
そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。	3．修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。 5．神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

（2）研究対象とする中心的な学問分野

本学が組織として研究対象とする中心的な学問分野は「神学」である。キリスト教神学は2000年の歴史を有し、中世のヨーロッパの大学は神学を主要な学問分野として出発し、アメリカの大学もプロテスタント神学を基盤に設立された。トマス・アクィナスにおいて神学は世界のすべてを対象としていたが、近代以降の世俗化した社会において、神学は膨大な学問分野の一つとなってしまった。しかしながら、近年において、神学はあらゆる学問分野と関係を持った学問領域として見直されつつある。

本学のキリスト教リベラル・アーツは、キリスト教世界観に基づく学問として、世界のすべてを神学の視点から考察することを目指している。また、人材の育成も、教会教職者と信徒の

奉仕者として、教会と社会のための公共性の自覚を重視している。本学ではこうした理解に立ち、神学部の中に神学科と国際キリスト教福祉学科を設け、幅広い神学教育を行っている。さらに総合神学科の設置にあたっては、神学の各分野である聖書神学、組織神学、歴史神学、実践神学をバランスよく統合し、国際キリスト教学とキリスト教福祉学を担ってきた同じ教員組織が、総合神学科の中で、より相互の関係を重視しながら研究と教育にあたることにした。

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」（2005(平成17)年）の「各学校種においては、個々の学校が個性・特色を明確化することが重要である」という提言の通り、本学においては神学の総合性を個性・特色として発揮することを総合神学科において実現する。

３．専攻科について

本学には、教会音楽専攻科が設置されており、このたびの総合神学科設置後も特別な変更なく存続する。同専攻科は、キリスト教会において音楽の専門的技術をもって奉仕する教会音楽主事等の養成を目指し、2011(平成23)年に設置された、１年制、定員５名の課程である。本学神学部や他大学音楽関係学部の卒業生を受け入れており、今後も総合神学科卒業生を受け入れる予定である。なお、総合神学科においても教会音楽関連科目は開設されており、希望する学生はそれらを履修して教会音楽副専攻を修めることも可能である。

Ⅱ　学部学科等の特色

１．高等教育の将来と本学神学部総合神学科の位置付け

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、本学総合神学科は、神学を中心とした「幅広い職業人養成」、及び神学を中心とした「特定の専門的分野の教育・研究」を目指す。また、本学大学院と連携して、「高度専門職業人養成」である牧師・教会教職者養成の基礎教育も担う。

Society5.0社会においても、「宗教者」はＡＩにより代替できない職業の代表であり、高等教育において人材養成する価値のある分野である。

また、専門職業人とならないとしても、グローバル社会においてキリスト教的教養・素養を持った人材は社会に不可欠であると考える。学問分野「神学」を中心として、宗教者のみならず、キリスト教的価値観を持った職業人（福祉、国際サービス、キリスト教教育、その他幅広い職業人）を養成することは、これまでも本学神学部（神学科及び国際キリスト教福祉学科）において行っており、このたびの計画ではその2学科を総合神学科に統合して、より発展させることを目指す。

２．本学神学部総合神学科の特色

本学はこれまでも、他大学の神学部（神学科）が行ってきた、教会教職者養成のみを目的とする神学教育や、信徒でない者も受け入れ教養としての宗教教育を行う神学教育ではなく、教会教職者または信徒として社会に仕えることを目指すクリスチャンを対象として、「教会と社会」に仕える人材養成を目指す神学教育を行ってきたが、「総合神学科」では、それをより幅広く展開することが大きな特色である。その精神は、特に１・２年次に提供される学部共通カリキュラムにあらわされている。

１・２年次教育の教育目標は「幅広い教養を身につけ、理論と実践を統合し、共同体での学び合いを通じて、霊性、知性、品性、社会性を育てる。また、基礎的学びを発展させつつ、キャリア形成を意識しながら専攻を選択する」である。その他の特徴は以下の通りである。(1)神学の基礎及びクリスチャンとしての教養を、様々な進路を考える（または進路を決めかねている）学生が共に学ぶ。３年次からの専門的な学び、さらに生涯にわたる学びを充実させる土台となる、アカデミックスキルとソーシャルスキルを身につける。(2)自分の心の姿を見つめ直し、神を知り、自分自身の全体像をよく知ることを通して、クリスチャンとしての生涯をそれぞれが豊かに生き抜いていくことを目指す「霊的形成」を行い、課題の多いこの世界に生きるキリスト者の意義を理解する。(3)全人格的な教育に力を入れる。知識を身に付けるのみならず、礼拝と祈りを共にする信仰共同体、土台作りの学びを共にする学習共同体、寮や課外での活動を共にする生活共同体で実践的に学び、互いの成長を励ます。

３年次（一部は２年次）から、学生の進路希望に応じた５つの履修モデルに基づく専門科目を提供する。履修モデルには、教会教職者養成を想定する「教会教職専攻」、グローバル人材養成を目指す「グローバル・スタディーズ専攻」、思春期の若者の指導者となる人材養成を目指す「ユース・スタディーズ専攻」、福祉人材の養成を目指す「キリスト教福祉専攻」、キリスト者としての総合的な学びを提供する「神学教養専攻」がある。これにより、教育目標である「教会と社会で…神と人に仕えるクリスチャンを養成する」ことを目指す。なお、いずれの履修モデルを選択しても授与される学位の専攻分野（神学）は共通である。各履修モデルの詳細は「Ⅳ．教育課

程の編成の考え方及び特色」で説明する。

３．大学上位組織との関係

従来は神学部のもとに神学科及び国際キリスト教福祉学科が置かれる1学部2学科体制であったが、この度の設置により1学部1学科体制となり、学部と学科は一体的に運営されることとなる。具体的には学部長が学科長を兼務することとなる。

大学院等との関連性は変更しないが、いずれの履修モデルを卒業しても大学院への進学を可能とする等、より連携を深める計画である。

Ⅲ　学部、学科等の名称及び学位の名称

本学科は、伝統的な学問分野である「神学」を、今日の世界と社会の中で意味のある学問として、また、狭い意味での「神学」の範囲にとらわれず、福祉学、教育学、国際関係論等の諸学の分野も含め、総合的に教育研究することを通して、高度専門職業人である教会教職者、及び幅広く教会と社会で活躍できる信徒奉仕者の養成を目指すものである。ゆえに、本学科の名称は、**東京基督教大学神学部総合神学科**とする。

本学神学部は、今日的適用性を追求する学問としての神学を教育研究分野としているため、学位に付記する専攻分野は「**神学**」とする。学位名は、「学士**（神学）**」とする。

本学科の教育課程は、その内容においても、目指すところにおいても国際的に通用する神学の学士号であるため、以下のような英訳名とする。

学部名称（英訳）

Undergraduate School of Theology

学科名称（英訳）

Theological Studies Department

学位名称（英訳）

Bachelor of Arts　（略称：B.A.）

Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色

１．教育課程の編成の考え方

本学科では、教育理念及び人材養成の目的達成のために、以下のカリキュラムポリシーによって、神学知識の実践的応用力を涵養することを視野に入れた、体系的で一貫性のある教育課程を導入し、実施する。

東京基督教大学では、「建学の精神」および「理念とミッション」に基づく「ディプロマポリシー」を達成するために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を提供し、学修成果をどのように評価するのかを、「カリキュラムポリシー」として以下のように定めています。この「カリキュラムポリシー」を通して、福音的な聖書理解と幅広い神学的知識、さらには情熱を持って神と人に仕えるための実践力を身につけたクリスチャンを育成することを目指します。（文末カッコ内は、東京基督教大学の「ディプロマポリシー：DP」に対応する番号です。）

［1］科目の提供

a. プロテスタント福音主義と超教派の理念に基づき、聖書神学、組織神学、歴史神学、実践神学の伝統的で幅広い神学の学びの機会を提供します。（DP-1,2）
b. 人間と社会を理解するために必要な教養教育科目を提供します。（DP-2,4）
c. クリスチャンとして広く社会で活躍する人を育成するため、日本語と英語の両方で学ぶことのできるカリキュラムを提供します。（DP-4）
d. 異文化と他者への理解をもって神と人に仕える実践力を身につけたクリスチャンを育成するため、実践神学、グローバル・スタディーズ、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉等の科目群を設けます。（DP-1,3,4）

［2］科目の編成

a. 学生の主体的な履修を励ますため、基礎学力の向上から専門的知識の修得までを可能にする科目を、科目番号を用いて体系的にわかりやすく配置します。（DP-1,2,3）
b. 学生が自らの興味や将来の目標に沿った学びを進めることができるように、幅広い神学科目の中から、より明確な将来像と結びついた複数の専攻（履修モデル）と副専攻を提供し、具体的な進路選択を促します。提供される専攻は以下のとおりです。教会教職、グローバル・スタディーズ、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉、神学教養　（DP-4,5）
c. 科目ごとに授業の目標、内容、教育方法、評価方法等を明記したシラバスを作成して学生に提供します。またカリキュラムポリシーを具体化し、可視化して共有するための「カリキュラムマップ」を学生と教職員に提供し、カリキュラムに関する大学全体の共通理解と連携を図ります。（DP-3）
d. 毎学期後に実施される学生による授業評価を用い、より効果的な科目配置や、授業内容の改善を実施します。（DP-3）

［3］学修の方法

a. 学生と教員の距離を縮め、より能動的な学修参加を促すため、少人数クラスの編成を基本とし、講義、演習（ゼミ）、実習（インターンシップ）、実技、卒業研究等の多様な学びの

機会を提供します。（DP-3,4,5）
b. 学生の能動的な学修参加と、他者との協働を促すため、授業の中で小グループ・ディスカッションや学生発表等のアクティブラーニングの諸方法を用いた学修の機会を提供します。（DP-3,4,5）
c. 社会と教会に仕える実践力や協働力を身につけたクリスチャンを育成するため、チャペル礼拝①出席及び地域教会での礼拝出席を必修とし、さらに寮教育の機会を提供します。（DP-4,5）
d. 卒業判定につながる学修成果の評価には、通常の科目成績評価に加え、学生の自己評価や他者評価が総合的に用いられます。（DP-1,2,4,5）

［4］学修(学習)のサポート
a. 担任制を設け、履修相談や進路相談を含めて、細やかに支援します。（DP-3）
b. 上級生と下級生の積極的な交流の機会②を設け、学生同士の相互援助を可能にする学習共同体の形成を促します。（DP-4,5）
c. 学習に困難さを抱える学生のために、支援制度を設けます。（DP-3）
d. 学生相談室を設け、心身の課題を含めた学生の多様なニーズに応えます。（DP-4,5）

［5］初年次の教育
a. 初年次の学生には、大学における学びに備えるための基礎的な学力の充実を主眼とする科目や、神学を概観できる科目に加え、大学という学習共同体の一体感や、キリスト教世界観を形成するために必要な実践的な学びの機会を提供します。（DP-1,2,3,5）
b. 初年次には、学生が自らの興味や召命感に基づいて、主体的に、そしてワクワク感を持って学習の計画を立てることができるよう、多様な履修モデルの紹介や、教員、上級生との交流の機会③が提供されます。（DP-3,5）
c. 入学前教育の結果等を用いて支援の必要な学生を把握し、入学直後からサポートを開始します。（DP-3）
d. 初年次からキャリア教育を開始し、具体的な将来像の形成を支援します。（DP-4）

「カリキュラムポリシー（CP）」の履行
・学部の科目やその内容に加え、その他の教育的プログラムや学生を対象とした企画等に関する文章には、根拠となる「カリキュラムポリシー」の記号（例：CP-1a、CP-3c）を併記し、本ポリシーの着実な履行を目指します。
・教職員は、本学の「教育の PDCA サイクル」を念頭に、自らの営みを「カリキュラムポリシー」や「ディプロマポリシー」と照らし合わせて常に確認し、必要な改善を継続的に実施します。

（注）
①チャペル礼拝とは、火曜日から金曜日に、大学チャペルでもたれる、全学生出席の礼拝のことです。
②③入学時のオリエンテーションやスプリングリトリート、小グループチャペル等が含まれます。

２．１・２年次の共通カリキュラム及び５つの履修モデル

（1）共通カリキュラム

本学科のカリキュラムの大枠は、「１・２年次の共通カリキュラム」及び「３・４年次の５つの履修モデル」である。

入学した学生は、１・２年次において主に「共通カリキュラム」を履修する。共通カリキュラムの概要は先述したが、総合神学科の学生としての学びの基礎、将来の専攻（履修モデル）の学びの備え、クリスチャンとしての人間形成を目指すカリキュラムとなっている。

共通カリキュラムの教育目標、カリキュラムの概要は以下の通りである。

＜教育目標＞

幅広い教養、理論と実践、共同体での学び合いを通じて、霊性、知性、品性、社会性の基礎を身につけます。また、基礎的学びを発展させつつ、キャリア形成を意識しながら専攻を選択します。

＜カリキュラムの概要＞

1）基本スキルの習得

大学での修学の土台となるアカデミックスキルとソーシャルスキルを身につけることを通じて学ぶ面白さを経験します。

2）霊的形成

キリスト教世界観に基づく自己理解・他者理解を踏まえた学びを通じて、破れ口に立つキリスト者として生きる意義を理解します。

3）共同体での成長

礼拝と祈りのプログラムを中心とした信仰共同体、コア科目を中心とした学びの共同体、寮を中心とした生活共同体に所属し、共同体での成長を促します。

4）充実した学修支援

学力のレベルに配慮したクラス運営と、必要に応じた学修支援を行います。

共通カリキュラムは、「コア科目」「教養科目」「語学科目（現代言語）」により構成される。

ａ．コア科目

コア科目は原則すべて必修科目であり、編入学生を含めてすべての学生が履修する。

内容は、本学の教育理念であるキリスト教世界観、自己理解等を内容とする「ＴＣＵスタンダード」、神学の基礎を学ぶ「キリストと世界」、信仰生活の基礎を霊性の観点から学ぶ「霊的形成」、大学生活におけるチャペル・教会実習・寮生活などの学生生活を通じて、クリスチャンとしての実践を学ぶ「クリスチャンライフ・フォーメーション」がある。

なお、日本語で教授される科目と、英語で教授される科目が配置されているが、基本的な内容は共通であり、学生は自らの習熟度に応じた言語を選択し履修する。

ｂ．教養科目

本学は、かねてよりリベラル・アーツの理念に基づき教養教育を重視しており、それは今回の学科再編においても引き継がれている。伝統的な神学教育は、ともすれば狭い専門の枠に陥りがちであるが、本学は、かねてより幅広い神学教育を目指しており、教養教育はその重要な

要素である。教会教職者にとっても、社会において活躍する人材にとっても、豊かな人間性を養うためには、教養教育が不可欠であると考えている。

内容は、大学で学ぶためのアカデミックスキルを養う「基礎演習」、情報リテラシー、キャリア教育、人文科学・社会科学の諸学の他、個人レッスン科目を含む教会音楽科目も教養科目に位置付けられている。

ｃ．語学科目（現代言語）

英語を中心に、韓国語、中国語の学びを提供している。英語科目については、「聞く」「話す」「読む」「書く」の４技能を総合的に学ぶ「Total English」、海外の協定研修施設で英語を集中的に学ぶ「EISA（海外英語研修）」等がある。

（２）５つの履修モデル

５つの履修モデル（学内的には「専攻」と称する）は、１・２年次の共通カリキュラムの土台の上に、学生の学びの関心や将来の進路に応じて、５種類の履修モデルとして提供される。具体的には、専攻ごとに「専攻指定科目」を設け、それら指定科目を修得したものについて、専攻の修了を認める、というものである**【添付資料④：専攻指定科目】**。学位に付記する専攻分野は、いずれの専攻を修めたとしても、「神学」で共通である。

２年次の春学期終了後に、学生の希望に基づき、教員による面談などを踏まえ、最終的には学務会議の議を経て所属する専攻を決定する。なお、専攻には定員などは設けず、基本的には学生の希望を尊重する。

それぞれの履修モデルの教育目標、カリキュラムの概要、人材養成像は以下の通りである。

ａ．教会教職専攻

＜教育目標＞

福音主義に立脚した神学の基礎と展開の方法を身につけることにより、誠実・柔軟性・総合的実践力を兼備し、包括的福音の担い手（救霊、破れ口に立つ者）を自覚する教会教職者を目指します。個々の異なる賜物と使命の成長を求め、本学全体と共に祈る共同体的専攻を目指します。

＜カリキュラムの概要＞

１）神学全体を有機的に学ぶ

本学の教会教職課程を（修士までの）４年間の枠組みとして捉えて、聖書・組織・歴史・実践神学を有機的一体感を持って学びます。それら神学の学びが教会的に統合されるために神学演習と説教演習を重視します。

２）神学全体を教会的に学ぶ

現代神学をも視野に入れて、福音主義神学を現代社会における生きた学びとして提供します。各神学的伝統を尊ぶとともに、超教派的神学教育（建学の精神）の柔軟性を保ち、教会と社会に深く広く仕える「狭義・広義の神学」を各科目が志向します。

３）神学全体を実践的に学ぶ

学内の諸委員会、教会実習、インターン、長期休暇中の各方面・国内外での奉仕、リーダー経験、特別セミナー、イスラエルスタディツアーの参加等を通して、神学の実践的統合と現場に即した学びを志向します。

＜人材養成像＞

本学大学院への進学を基本とし、教会教職者（牧師、伝道師、宣教師）・各種伝道団体におけ

るスタッフ/指導者・神学研究者を目指します。

ｂ．キリスト教福祉専攻

＜教育目標＞

分断されがちな社会の狭間に立って市民社会の形成を志向し、神から与えられる福祉（さいわい）が個人からコミュニティにまで広がることを推進できる、①クリスチャンワーカーとしてのスピリットとアイデンティティを備え、人の心の痛みに寄り添える人材、②社会に対する深い洞察力をもって、対立する考えをもまとめあげ、提案できる人材、③将来福祉のどの分野においても、伸びしろを持って成長し、活躍できる基盤を備えた人材を育成します。

＜カリキュラムの概要＞

１）献身的愛

主イエス・キリストが私たちに与えてくださった愛を実践できるよう、聖書を土台とした倫理観と心理的・霊的痛みに共感し寄り添える心を育てます。

２）問題解決能力

様々な問題や課題に対して科学的根拠とキリスト教世界観に基づく問題解決の思考過程を訓練し、解決できる力を養います。

３）リーダーとしての能力

主イエス・キリストに倣うサーバント型リーダーシップや福祉人材に求められるチームマネジメントの能力を養います。

４）創造性、開拓精神

変化する社会の福祉ニーズをキャッチし、制度や現状などを批判的に考察して政策提言できる能力と、教会が担う福祉ミニストリーなど既成概念にとらわれない創造的な実践ができる能力を備えます。

５）国際性

今後高齢化が進むアジア諸国の人々・教会と連帯し、世界各国の人々と共生できる社会の一翼を担う国際的な視点を養い育てます。

＜人材養成像＞

福祉行政機関や一般の福祉施設・事業をはじめ、キリスト教主義の福祉施設や教会の福祉領域を担うスタッフ等の福祉人材の養成を目指します。同時に、大学院等への進学や、現場経験を経た上での介護支援専門員・相談支援専門員、介護福祉士養成施設の教員なども視野に入れます。

ｃ．ユース・スタディーズ専攻

＜教育目標＞

ユース（思春期の若者）に仕え、ユースを導き教えることの出来るクリスチャン・リーダーを養成します。

＜カリキュラムの概要＞

福音的な聖書理解を基に、ユース期の若者に仕えることや、彼らの信仰成長に関与することを学びます。ユース期の若者の心理的特徴や文化的特徴に着目しつつ、実践的な経験を積み上げ、リーダーとしてのスキルを身に付けていきます。

＜人材養成像＞

ユースに特化した伝道団体、チャーチスクール等の教育機関、教育支援団体や児童養護施設等で働く人、教会のユースグループのリーダー、教団教派等のユース・ミニストリーを企画・運

営する人などを養成します。卒業後は、本学大学院へ進学し、専門性を磨くこともできます。

ｄ．グローバル・スタディーズ専攻

＜教育目標＞

国内外における社会問題の理解と解決のために、様々な視点から分析し、創造的に発想する力を養います。また、世界の痛みのあるところに神の愛と平和をもたらすために、異文化の人々と協働することのできる実践的な力をもった人物を育成します。

＜カリキュラムの概要＞

１）破れ口における平和への視点

貧困や環境破壊等、社会の分断や破壊をもたらす国内外の問題に幅広く目を向け、聖書と神学を基盤としたキリスト教世界観や倫理観を踏まえて、真の和解と平和を考える授業を実施します。

２）体験型学習

こどもの貧困問題に関わる日本の教会から、経済的な貧富格差問題に取り組む海外 NGO まで、問題解決に関わる当事者の声に耳を傾け、現場の視点で考え抜き、常に共感をもって人々に寄添いながら学ぶ体験型授業を実施します。

３）ハイブリッド型学習

日本人学生と留学生が共同生活する「寮内留学」、日英両言語を使ったハイブリッド型の授業や協働プロジェクト型の授業を通して、多様な文化と協働するためのコミュニケーション力を養います。

４）クリティカル・シンキング

身近な国内からグローバルな課題について、自分の考えや物事の前提を批判的に検証し、問題の解決に向けて多様な視点から分析しながら新たな方向性について創造的に発想できる力を養います。

５）実践的な言語学習

海外での短期語学留学や提携校でのダブルディグリーのプログラムを通して、英語の意思疎通能力を高めます。留学生も日本人学生との協働授業で日本語を学ぶ他、近隣アジア諸国の言語コースも開設します。

＜人材養成像＞

国内外の NPO、企業、教育・福祉機関、多様な文化背景をもつ教会におけるクリスチャンの働き人を育成します。また、大学院へ進学し研究者を志す人等も養成します。卒業後は、本学大学院へ進学することもできます。

ｅ．神学教養専攻

＜教育目標＞

世の中の多様な必要に応えるクリスチャンを養成します。

＜カリキュラムの概要＞

コア科目40単位を必修として、キリスト教世界観や福音的な神学の基礎を学んだ上で、担当教員と学生が協力してその後の履修計画を作成します。学力の多様化や希望する将来像の多様化に加え、学生が送り出されていく社会や教会の必要も多様化している昨今、個々の学生の必要や希望に寄り添いつつ、200以上の科目の中から、あらかじめ作成されている複数の履修モデルを参考にして、その学生に適した履修を組み立てて行きます。日本語と英語の両言語による履修も可能です。学生は教員の指導を受けつつ「神学教養専攻履修計画書」 を作成・提出し、

承認される必要があります。

＜人材養成像＞

一般企業に就職し、与えられた職場で証人(あかしびと)として活躍する人、クリスチャン企業で働く人、 聖書や神学の学びを継続し、その分野での研究者や教育者を目指す人、地域教会で牧師をサポートするクリスチャン・リーダーなどを養成します。卒業後は、本学大学院へ進学することもできます。

３．秋入学者への対応

本学は、2001(平成13)年に、神学部神学科に「アジア神学コース」を設置し、主に英語圏出身の学生に、英語で教授される授業科目を提供してきた。同コースは原則として秋入学（８月に学年開始）により学生を受け入れてきた。

総合神学科設置により、アジア神学コースは発展的に解消されるが、引き続き、英語圏学生を秋入学により受け入れる。旧カリキュラムでは、「アジア神学コース」専用科目として位置づけられていた英語による授業科目を、総合神学科においては、各科目区分に日本語・英語科目を並列して配置することにより、日本語・英語カリキュラムを融合させたことも、新しいカリキュラムの大きな特色である。これにより、学生は日本語・英語いずれの科目も、それぞれの言語の習熟度に応じ自由に選択して履修することが可能となり、選択肢が大きく広がることとなった。

英語圏出身の学生は、従来の「アジア神学コース」と同様に、英語で教授される授業科目のみの履修で卒業要件を満たすことが可能である。具体的には、コア科目、教養科目、語学科目、神学科目、グローバル・スタディーズ科目に、英語で教授される授業科目が配置されており、教会教職専攻、グローバル・スタディーズ専攻、神学教養専攻の各履修モデルを修了可能である。

教員の負担は、従来から秋入学者の受け入れ、英語科目による教育及び学生支援体制は実施しており、特段に増大するものではない。

Ⅴ　教員組織の編成の考え方及び特色

１．教員組織編制の理念

教育研究組織と教員組織を維持しつつ、教育課程を整理統合し、「神学科」と「国際キリスト教福祉学科」の2学科を廃止して、「総合神学科」を設置する。以上の設置の趣旨に基づき、現在の教員全員（高年齢による退職予定者を除く）を「総合神学科」に属する教員として再編成する。そのことにより、教員配置と学生数の不均衡を是正し、「建学の精神」に基づく教育を発展させることを目指す。

２．主要な科目への教員の配置

神学部総合神学科1学科に再編するにあたり、必修のコア科目を９科目のみに絞り込み、日英の両言語で履修できるようにした。これは新入生も編入生も共通して履修する、総合神学科の基幹となる科目である。自校教育を含む「TCU スタンダード(TCU Standard)」は専任の教授・准教授が責任を持つ。「キリストと世界(Christ and the World)」は、キリストと世界という視点から神学・旧約・新約聖書について基礎を教えるもので、専任の教授・准教授が担当する。「霊的形成(Spiritual Development)」は現代キリスト教において人格形成を問い直す科目であり、専任の教授・准教授を中心に取り組む。「クリスチャンライフ・フォーメーション(Christian Life Formation)」は、通年のチャペル・寮等での生活・地域教会での実習の全体を含んだ実践的な基礎科目で、専任の教授・准教授を中心に担当する。

これらのコア科目以外はすべて選択科目として、それぞれの興味と方向性により履修していくが、聖書学、実践神学、組織神学、歴史神学、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉、グローバル・スタディーズ各分野の概論となる番号の若い（多くはⅠ・Ⅱ）科目は、原則として専任の教授と准教授で教える体制を取っている。

実務経験の豊富な教員の配置については、教会教職者という専門的職業人を目指す学生が全体の約３分の１を占めるため、「実践神学」７科目の内、４科目を20年以上の実務経験（教会教職歴）を有する専任教授３名が担当し、１科目を専任准教授が、２科目は教会教職者である兼任教員が担当する。並行配置する Practical Theology Ⅰ-Ⅶは専任准教授が３科目を教え、残り４科目を兼任教員が担当する。英語による実践神学科目は、牧師等の専門的職業人である外国人の兼任教員が多く担当する。専門的職業人としての経験豊かな教員を配置しているのは「実践神学」部門、また「キリスト教福祉」の諸科目に集中しており、現場の経験を活かした教育を行うことを可能としている。

学内行政職を持つ教員は、担当責任コマ数を低く設定しているが、それを超過して担当する教員については、大学院生等によるティーチング・アシスタントを用いて、教員の負担と学生への指導に不具合が生じないようにしている。

３．研究分野

研究分野は神学（聖書学・組織神学・歴史神学・実践神学）を中心として、神学と関連するユース・スタディー、グローバル・スタディー、キリスト教福祉の研究諸分野がある。神学を中心に、関連分野、英語等教養分野を含めて総合神学科としての研究体制を整えている。

学内の研究組織である共立基督教研究所及び国際宣教センターには、N.T.ライト研究会（新約学を中心とした研究会）、実践神学研究会、キリストと政治研究会、千葉県キリスト教史研究会、キリスト教と福祉学研究会などが専任教員を中心に組織され、神学の総合的な研究に取り組んでいる。また、本学紀要として『キリストと世界』を刊行することに加え、各研究組織から諸分野における研究業績を適宜刊行あるいは公表している。

研究支援組織として「研究支援センター」が設置されている。同センターは研究科委員長をセンター長とし、本学における研究活動の開始から研究成果の社会への還元までを支援し、学術研究の一層の推進を図ることを目的としている。主な業務内容は、研究活動推進、研究倫理、学内研究費及び研究助成、科研費等外部研究費に関することである。

４．専任教員の年齢構成

本学の専任教員は、満63歳以降満70歳後の年度末まで「特任教員」として雇用が継続される**【添付資料⑤：特任教員に関する規程】**。特任教員は勤務日数、学内行政、教授会の構成等において、専任教員として扱われる。完成年度の2025(令和7)年3月31日時点における専任教員20名の年齢構成は、70代１名（５％）、60代８名（40％）、50代６名（30％）、40代４名（20％）、30代１名（5％）である。

完成年度に70歳を超える教員については、完成年度満了まで特別教授**【添付資料⑥：特別教授に関する規程】**として雇用を継続する。また、その後任候補者として、同じ研究分野（旧約聖書学）に取り組む30代の研究者2名を研修生として支援している。そのうち１名は博士号を取得して2019(令和元)年度より本学の兼任教員として教え始めている。もう１名は海外大学で博士号取得見込みであり、2021(令和3)年には帰国予定である。

完成年度に60代の教員は８名いるが、それら教員の研究分野のうち重要な分野（新約聖書学、実践神学）には、50代、40代の教員も配置し、研究分野の継続を図っている。その他の分野についても、計画的に教員の配置を行っていく。

Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

１．教育方法

本学科の教育は、カリキュラムポリシーを踏まえ、以下の特徴をもって実施される。
以下主要な点について、関連するカリキュラムポリシー項目ごとに説明する。

（１）「学生の主体的な履修を励ますため、基礎学力の向上から専門的知識の修得までを可能にする科目を、科目番号を用いて体系的にわかりやすく配置します」「カリキュラムポリシーを具体化し、可視化して共有するための「カリキュラムマップ」を学生と教職員に提供し、カリキュラムに関する大学全体の共通理解と連携を図ります」（［２］科目の編成　a、c）

各科目に履修の目安となるナンバリングと、先行して履修すべき先修科目を設定することにより、漸進的な科目履修と学術修得の便宜を図る**【参考資料⑦：科目ナンバリングについて】**。

なお、各科目の配当年次は、コア科目・教養科目等の共通カリキュラム部分は１・２年次、専門科目は３・４年次（一部２年次）に設定されることが原則であり、専門科目の中でも概論的な科目・分野ごとに重要な科目は若い年次に設定されている。**【参考資料⑧：科目区分における配当年次の例】**

また、カリキュラムマップを作成し、学生・教職員ともカリキュラムに関する共通理解を図る。**【参考資料⑨：カリキュラムマップ案】**

（２）「学生と教員の距離を縮め、より能動的な学修参加を促すため、少人数クラスの編成を基本とし、講義、演習（ゼミ）、実習（インターンシップ）、実技、卒業研究等の多様な学びの機会を提供します」「学生の能動的な学修参加と、他者との協働を促すため、授業の中で小グループ・ディスカッションや学生発表等のアクティブ・ラーニングの諸方法を用いた学修の機会を提供します」（［３］学修の方法　a、b）

本学は小規模校であるため、そもそも多くの授業は少人数で実施されるが、その中でも、能力別クラスを導入するなど少人数クラスの編成を徹底する。そのような環境で、創造的で論理的に考える力を養い、また説得力のある発言力の涵養、共同研究による協働する力を育成するため、多くの授業で、講義形式と演習形式を併用した授業形態により教育を行う。具体的には、小グループ・ディスカッションや学生発表等のアクティブ・ラーニングの諸方法を用いた学修を実施する。

また、集中して効果的な教育を実現するために、10週間を１学期とし年間３学期30週とする「トライメスター制」を実施する。また１コマを10分間の休憩を挟んだ実質140分とすることで、演習及び演習形式を含む授業の充実を図る。**【参考資料⑩：授業時間について】**

（３）「社会と教会に仕える実践力や協働力を身につけたクリスチャンを育成するため、チャペル礼拝出席及び地域教会での礼拝出席を必修とし、さらに寮教育の機会を提供します。」（［３］学修の方法　c）

本学は以前より全寮制教育を実施しているが、これは新学科においても継続される。すなわち、学生は、原則としてキャンパス内の寮に居住し、教室での学習にとどまらない実践的な学びを寮教育においても経験することを目指している。

寮には専任教員である寮主事を配置（男子寮、女子寮、家族寮の３名）し、また学生課職員を生活面での指導とサポートにあたらせる他、学生から寮長等の寮運営委員を選出させ、運営委員による自主寮としての寮運営を実施している。

また、火曜～金曜に各30分間行われる学内チャペル、毎日曜日の地域のキリスト教会への出席（及び各教会の指導に基づく教会内奉仕活動）を、授業科目「クリスチャンライフ・フォーメーション」の内容に位置づけ、必修科目としている。これら実践的な教育内容により、社会と教会に仕える実践力や協働力を身につけたクリスチャンの育成を目指す。

（４）「卒業判定につながる学修成果の評価には、通常の科目成績評価に加え、学生の自己評価や他者評価が総合的に用いられます」（[３] 学修の方法　d）

本学は、これまでも「学修自己評価書」「生活自己評価書」「卒業前自己評価書」による自己評価を行っているが、総合神学科においてはこれをカリキュラムポリシーにも位置付ける。

「学修自己評価書」は、学生自身が学習の目標を設定し、それらを振り返ることで、自らの学びを高め、また深化させるために設けられた自己評価制度である。各年度末に様式に記入して提出する。

「生活自己評価書」は、寮生活をはじめとする学生生活について振り返り、「社会と教会に仕える実践力や協働力を身につけたクリスチャン」（カリキュラムポリシー）としての理念をどれだけ生活に反映できたか、どのような自主的取り組みができたかを自己評価する。各年度末に様式に記入して提出する。

卒業前には、本学における自らの学び全体を振り返って「卒業前学修自己評価書」による自己評価を提出すると共に、担当教員による個別面談を行い、ディプロマポリシーに基づく本学の教育が学科・専攻の目指す目標を達成しているか、卒業予定者が身につけるべき資質を得られているかを確認する。

２．卒業要件及び履修モデル

総合神学科の卒業要件は、「コア科目から必修科目を22単位、各科目区分から選択科目を102単位以上修得し、合計124単位以上修得する」である。

学科としての必修科目は、コア科目22単位のみであり、その他の科目はすべて選択科目となっている。なお、選択科目のうち、40単位は専攻（履修モデル）による指定科目となっている。また、１年次入学者は、基礎演習、キャリア教育、Total English 等の45単位が「１年次指定科目」に設定されており、残り39単位は学生が自由に選択できる。**【参考資料⑪：卒業要件単位数の内訳】**

５つの専攻（履修モデル）の修了要件は、専攻指定科目**【添付資料④：専攻指定科目】**を40単位以上修得することとなっており、この要件を満たした場合は、各専攻の修了を認める。

各年次の履修モデル表は別添の通りである。**【参考資料⑫：学年別履修モデル】**

３．履修科目の年間登録上限、他大学における授業科目の履修等

各年次で履修できる年間履修単位の上限は38単位（編入学生は48単位）である（通年科目、集中講義科目を除く）。この上限を超えた単位を履修登録することはできない。また、成績不良の場合は、履修単位数を制限することがある。なお、直近の学期の GPA 値が2.70以上で、上限を超えて履修を希望する場合、所定の手続を経て上限を超える履修を許可する場合がある。

国内外の他大学における単位互換や単位認定等の上限は、卒業要件単位数124単位のうち選択科目を中心として60単位とする。

４．留学生の受け入れと履修指導体制等

本学は、これまでも留学生の受け入れを積極的に行ってきたが、総合神学科においても、秋入学による学生の受け入れや日英両言語による授業提供を実施する等、引き続き積極的に留学生の受け入れを実施していく。

本学の全寮制教育については前述の通りだが、これは留学生についても当てはまり、原則としてキャンパス内の寮に居住させる。これにより、入学後の履修指導や生活指導についてもきめ細やかな実施が可能となっている。

本学の専任教員（助手を含む）22名のうち、外国人教員は５名である。また、日本人教員も欧米の大学での学位取得者が大半であり、これら国際色豊かな教授陣が手厚い留学生への指導を可能としている。外国人教員５名の国籍は、アメリカ３名（全員男性）、韓国１名（女性）、ウガンダ１名（女性）である。うち１名はグローバル担当の副学長であり、別の１名は寮主事を兼務し、留学生の生活指導にもあたる。

また、経済的に就学困難な留学生に対する本学独自の奨学金の実施や学外奨学金についての情報提供、学習・生活面についての留学生テューターの配置、本学職員による在留手続きの取次申請等、積極的な留学生サポートを実施している。

Ⅶ　施設・設備等の整備計画

１．校地、運動場の整備計画

総合神学科のキャンパスは、従来の神学部２学科のキャンパスを引き継ぐ。本学キャンパスは、千葉県北総地域の自然環境の豊かな地に位置しており、原則全寮制の教育環境の中、学生はキャンパス内の寮に住み、将来に向けて研鑽を積み、人格的陶冶を受ける環境としてふさわしい立地であるといえる。また千葉ニュータウン地域の一角に位置し、大規模な商業施設も近隣にあり、鉄道で都心及び成田国際空港とも直結するなど、生活の便もよい地域である。

本学の校地面積は、現在58,926.44㎡（校舎・運動場敷地）であり、学部・大学院をあわせた収容定員202名に対しても、設置基準を十分に満たしている。キャンパス内には、運動場及び学生の休息その他の利用のための適当な空地としての中庭や園地も含まれる。

運動場及び主な体育施設は以下の通りである。

・体育館（767.85㎡）
・運動場
　グランド１面

２．校舎等設備の整備計画

本学の校舎面積は、現在6,248.84㎡であり、単一学部大学として、設置基準を十分に満たしている。

施設の概要は以下の通りである。

・本部棟（812.75㎡、理事長室、学長室、事務局、その他）
・教室・研究室棟（2265.17㎡、大教室(1)、中教室(5)、小教室(4)、教員研究室、語学学習室、コンピューター室、キャリア支援室、その他）
・大学院棟（728.62㎡、講義室(3)、演習室(1)、学生研究室、その他）
・図書館（1085.08㎡、図書館、歴史資料室、その他）
・学生会館（827.28㎡、食堂、厨房、サークル室、その他）
・チャペル（767.57㎡、チャペル〈講堂〉、音楽アンサンブル室、音楽練習室、その他）
・公共福祉棟（646.05㎡、教室(4)、介護・入浴実習室、家政実習室、その他）
・バルナバホール（218.33㎡、ラウンジ〈福利厚生施設〉、ゲストハウス、その他）
・国際宣教センター館（419.58㎡、小チャペル、セミナー室、附属研究所事務室、茶室、その他）
・学生寮（男子寮、女子寮、家族寮、シオン寮）

校舎内の講義室は大学全体で合計14室（教室・研究室棟7室、大学院棟3室、公共福祉棟4室）、演習室は4室（教室・研究室棟3室、大学院棟1室）である。その他、実習室が合計3室（公共福祉棟3室）、情報処理・語学学習室が2室（教室・研究室棟2室）ある。その他、国際宣教センター館（附属研究所）、図書館グループスタディー室等でも授業が可能である。授業は、完成年度において、個人レッスン科目などを除いて１週間あたり最大57科目**【参考資料⑬：予定時間割】**を計画しており、同時開講科目数は８科目以下であり十分な教室数が確保されている。なお、教室・研究室棟の２室はアクティブ・ラーニング教室として、電子黒板、可動式椅子、小型ホワイトボード等を整備している。

学生の休息施設として、学生食堂、チャペル、運動場、天然芝の中庭等を備えている。また、学生の居住施設として、男・女独身寮、家族寮を用意している。独身寮室は、学習机・本棚等を備えた１人部屋または２人部屋であり、別に自習室として男女各２室がある。また、すべての寮にはインターネット接続設備を整備している。

教員研究室は合計25室（教室・研究室棟16室、大学院棟5室、公共福祉棟４室）あり、すべての専任教員に個室を確保している。また、非常勤教員控室2室、研究室１室を備えている。

３．図書等の資料及び図書館の整備計画

本学附属図書館の蔵書点数117,674点（和書75,126外国書42,548）、専門雑誌点数は692タイトル（和403、外国289）（いずれも2019(令和元)年度末現在）で、神学系の図書館として質量ともに充足している。希覯図書として、「カルヴァン全集」、「教父全集」、「聖書写本各種」等を所蔵している。学術雑誌は、国内雑誌「神学」「キリスト教史学」「福音主義神学」、外国雑誌“Biblica”、“The Journal of Religion”、“Zeitschrift für Theologie und Kirche”等を所属している。

オンラインデータベースや電子ジャーナル等の電子資料については、辞典系データベースは、ジャパンナレッジと、ギリシア語関係のデータベース Thesaurus Linguae Graecae、研究社オンライン・ディクショナリー等、論文情報のデータベースとして、The American Theological Library Association (ATLA) Religion Database、Old Testament Abstracts 及び New Testament Abstracts、JSTOR 等を導入している。これらについては、図書館内の情報端末で閲覧・検索ができる他、キャンパス内のネットワークに接続されたコンピューターからのアクセスも可能であり、利用者の要望に応えている。

図書館協力体制として、千葉県私立大学図書館協会に加盟しており、その加盟図書館、さらには他大学の図書館や公共図書館と連携し、利用者の資料要求に応えている。また、他の神学校図書館とのネットワーク作りのために、本学図書館が中心となって「神学校図書館フォーラム（連絡協議会）」を立ち上げ、複数の神学教育研究機関の所属図書館間の協力関係を推進している。

図書館設備は、図書館面積 1,085.08㎡、収容可能冊数約13万冊、閲覧席数60席、である。その他の設備は、グループ学習室１部屋、キャレルブース２部屋（一部屋２名）、アーカイブ室１部屋、利用者用情報端末６台、がある。また、インターネット接続設備を整備している。2016(平成28)年度には、私立大学等改革総合支援事業により、閲覧席をラーニングコモンズとして、個別学習スペース、グループ学習スペース等を整備し、国籍を異にする複数の学生が集まって、様々な媒体・言語による情報を用いてグローバルに学び、議論を進めていく学習スタイルを可能にする「場」の提供を行った。

図書館予算は、資料費として2020(令和2)年度に1000万円を計上している。

Ⅷ　入学者選抜の概要

１．神学部総合神学科の入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

アドミッションポリシーは以下の通りである。

東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいた世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。
本学の教養教育、寮教育やチャペル礼拝を通したキリスト教人格教育、各専攻による専門教育により、プロテスタント福音主義の意義と本学の超教派の理念を主体的に理解し、次の力を身につけます。①神学の知識とその応用力、②人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力、③神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見。

本学の入学者に求める条件、資質は以下の通りです。
1. 既に洗礼を受けたか、幼児洗礼の場合は信仰告白をした者。
2. キリストへの献身(※)を表明し、将来教会と社会に仕えることを志す者。
3. 本学の建学の精神と信仰基準に同意する者。
4. 聖書の基礎知識と基礎的教養に基づいて自分で考え表現する力のある者。
5. 自分のことば(表現)で他者とコミュニケーションをとれる者。

本学の入学者選抜においては、聖書の基礎知識、基礎的教養に基づいて自分で考え表現する力、自分のことば(表現)で他者とコミュニケーションをとれる力があるかどうかを審査します。なお、入学者選抜における評価方法及び評価比重については、別途学生募集要項に定めます。

※本学が考える「献身」とは、牧師や宣教師のみならず、広くこの世界でキリストに仕える者としての献身を意味します。

２．募集人数・募集区分及び選抜方法についての考え方

総合神学科の入学者の募集人員は、再編前の2学科（神学科17名、国際キリスト教福祉学科16名）を合わせた33名、3年次編入学者の募集人員は14名とする。入学者選抜の募集区分は、(1)総合型選抜、(2)学校推薦型選抜、(3)特別選抜の3種類とする。各入試別の募集人員は以下の通りとする。なお、一般選抜を実施しない理由は、2021(令和3)年度からの総合型選抜では筆記試験として小論文を課すため、従来聖書と小論文の筆記試験を課していた一般選抜との差異が小さいためであり、また、入試方式を簡潔にすることで学生募集に資すると考えるためである。

各選抜において共通課題（小論文）、聖書口頭試問、面接は必ず課す。本学は「教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成すること」を教育の目標としており、キリストへ「献身」（牧師や宣教師のみならず、広くこの世界で様々な職業に就きつつ、クリスチャンとして生きること）し、教会と社会に仕える志をもった学生の入学を強く願っている。そして志だけでなく、神学を学ぶ前提となる聖書の基礎知識を問う理由は、入学前から聖書を読み知識を深めることが、入学後の学びに、ひいてはクリスチャンの全人的成長に有用だからである。

各選抜における評価は、本学アドミッションポリシーにおける聖書の基礎知識、基礎的教養に基づいて自分で考え表現する力を評価比重50%、キリストへの献身、将来教会と社会に仕える志、本学の建学の精神と信仰基準に同意するかどうか、主体性を持って他者とコミュニケーションをとれる力を評価比重50%で実施する。

＜入学者（1年次）選抜＞

試験区分		募集人員	募集定員割合
総合型選抜		18名	55%
学校推薦型選抜	公募制	10名	30%
	指定校制	若干名	―
特別選抜	秋季入学者選抜	5名	15%
合計		33名	100%

＜編入学者選抜＞

試験区分	募集人員	募集定員割合
編入学者選抜（3年次編入）	14名	100%
編入学者選抜（2年次編入）	若干名	―
合計	14名	100%

３．出願資格

出願資格については、【基本軸とする出願資格】を以下の通りに定める。また、各選抜における多様な学生の受け入れを目的として、それぞれの学習歴や経歴に合わせた出願要件を設定し、選抜試験を実施する。なお外国籍の受験生には、日本語で学ぶ場合、英語で学ぶ場合のそれぞれにおいて本学で学ぶ力のある日本語能力、英語能力を出願資格として求める。

【基本軸とする出願資格】

受洗後(※1)キリストへの献身を明確にしたキリスト教信者であり、次のいずれかの資格を満たす者。

・高等学校または中等教育学校を卒業した者、及び卒業見込みの者。
・通常の課程による12年の学校教育を修了した者、及び修了見込みの者。
・学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、及びこれに該当する見込みの者。
・外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、及び修了見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
・文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該教育を修了した者、及び修了見込みの者。
・専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者、及び修了見込みの者。
・文部科学大臣の指定した者。
・文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験（旧制度の大学入学資格検定を含む）に合格した者、及び合格見込みの者で、18歳に達する者。

・本学における個別の入学資格審査により、高等教育を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達する者。

※1 ただし出願時にはやむを得ない事情により受洗できていないが、入学時までに受洗予定がある場合、出願が認められることがある。

4．各入学者選抜の実施方法

＜入学者（1年次）選抜＞

試験区分		募集人員	対象	選抜方法
総合型選抜		18名	【基本軸とする出願資格】を満たす者。外国籍の場合、本学の求める日本語能力を保持している者。	共通課題(小論文) 小論文 聖書基礎知識口頭試問 面接
学校推薦型選抜	公募制	10名	【基本軸とする出願資格】を満たし、日本の教育制度に基づく高等学校または中等教育学校を卒業見込みまたは卒業した者(1年以内)で、全体の評定平均値が3.5以上の専願者。かつ在籍または卒業した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦を受けた者。	共通課題(小論文) 調査書 聖書基礎知識口頭試問 面接
	指定校制	若干名	【基本軸とする出願資格】を満たし、本学指定校の高等学校または中等教育学校を卒業見込みまたは卒業した者(1年以内)で、全体の評定平均値が3.0以上の専願者。かつ在籍または卒業した高等学校または中等教育学校の学校長の推薦を受けた者。	共通課題(小論文) 調査書 聖書基礎知識口頭試問 面接
特別選抜	秋季入学者選抜	5名	本学において英語で学ぶことを希望し、【基本軸とする出願資格】を満たす者。本学の求める英語能力を保持している者。	共通課題(小論文) 特別課題(小論文) 聖書基礎知識口頭試問 面接 以上を全て英語で実施。

＜編入学者選抜＞

試験区分	募集人員	対象	選抜方法
編入学者選抜 (3年次編入)	14名	受洗後キリストへの献身を明確にしたキリスト教信者であり、次のいずれかの資格を満たす者。	共通課題(小論文) 小論文 聖書基礎知識口頭試問
編入学者選抜	若干名		

(2年次編入)		(1) 学士の学位を有する者及び学士の学位を授与される見込みの者。 (2) 大学の1年次を修了し、約30単位を目安に修得した者及び修得見込みの者。 (3) 大学の2年次を修了し、約60単位を目安に修得した者及び修得見込みの者。 (4) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者及び卒業見込みの者。 (5) 修業年限が2年以上であり、課程の修了に必要な総授業時間数が1,700時間以上である専修学校専門課程を修了した者及び修了見込みの者。 (6) 外国において学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む）を修了した者及び修了見込みの者。 (7) 高等学校等の専攻科の課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者及び修了見込みの者。 ※外国籍の場合、本学の求める日本語能力を保持している者。	面接

５．留学生の受け入れについて

外国籍の受験生で、本学にて日本語で学ぶ場合、下記のいずれかを満たす者が出願できる。

（１）日本語能力試験(N1レベル)合格者

（２）日本留学試験「日本語」の「読解、聴解・聴読解」(400点満点)で280点以上かつ「記述」(50点満点)で35点以上の成績を有する者

（３）本学の実施する日本語能力認定試験合格者

（４）その他本学において(1)～(3)と同等以上の日本語能力を有すると認めた者

本学にて英語で学ぶ場合（秋季入学者特別選抜）、基準点以上の TOEFL 等の英語能力試験の証明書を出願書類として求める。英語能力証明書提出が叶わない者(発展途上国からの出願者等)には本学独自の英語能力評価表を提出させ、それに基づき英語能力を審査している。

また、経費支弁能力の確認のため、合格者で在留資格「留学」申請者には「経済支弁誓約書(Affidavit of Support)」にて学納金を保証する者を立てさせ、公証を取った上で提出を求めている。入学後の在籍管理についても、全寮制で小規模大学であるメリットを生かし、きめ細やかに対応している。

なお、留学生に対する履修指導方法、教育上の配慮等については、「Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件／４．留学生の受け入れと履修指導体制等」に記載する。

６．社会人の受け入れについて

本学はこれまでも、一定の社会経験を経た上で教会教職者を志す者等、社会人の受け入れを積極的に行ってきた。総合神学科においても社会人の受け入れは継続する。

社会人志願者は総合型選抜に出願する。総合型選抜は、筆記試験は小論文と聖書のみであり、社会人にも対応しやすい入試制度となっている。

学生生活については、本学は原則全寮制であるが、40歳以上の社会人は通学も選択可能とする等、学生の個々の事情に応じて柔軟に対応する。

なお、社会人学生は、３年次編入学で入学する場合が多い。編入学生に対する詳細については、「Ｘ　編入学定員を設定する場合の具体的計画」に記載する。

７．非正規生の受け入れ

（１）科目等履修生・聴講生

大学の社会への開放の一環として、科目等履修生・聴講生制度を設けている。なお、科目等履修生・聴講生の受け入れは、正規学生の履修に支障がない範囲で行う。

志願条件：本学の信仰基準に同意するキリスト者で、高等学校卒業あるいはそれと同等以上の資格を持ち、大学に合格する学力を有する者。あるいは本学が特別に許可する者。

受入人数：毎年20～30名程度

受入科目：全科目（一部履修不可科目有）

履修単位数：年間30単位以内

（２）短期留学生

海外からの科目等履修生（短期留学生）制度を設けている。なお、短期留学生の受け入れは、正規学生の履修に支障がない範囲で行う。

志願条件：本学の信仰基準に同意するキリスト者で、海外大学在籍者(GPA3.0以上)または卒業者。

受入人数：毎年10名程度

受入科目：全科目

履修単位数：1学期12～15単位程度

Ⅸ　企業実習（インターンシップ含む）や海外語学研修等の具体的計画

１．科目「実習」について

総合神学科提供科目のうち、専門科目（統合科目）の「実習Ａ・Ｂ・Ｃ」は、学外の各施設の協力のもと、学外での実習を単位認定するものである。なお、選択科目として行われる。

予定実習施設等の一覧は別添の通りである。**【参考資料⑭：予定実習一覧】**

２．科目「EISA（海外英語研修）」について

夏期休暇期間中の約1か月間、フィリピン・セブ島の語学学校（CPILS(Center for Premier International Language Studies)）に学生を派遣して実施する。引率は本学専任教員が行い、語学学校から提出された成績及び帰国後の英語プレゼンテーションに基づき単位を認定する。なお、選択科目として行われる。

Ｘ　編入学定員を設定する場合の具体的計画

１．既修得単位の認定方法

総合神学科は、３年次編入定員として14名を設定する。編入学受け入れ開始は2023(令和5)年４月となる。基本的に、他大学を卒業した後、本学の学部及び大学院を修了し牧師等の教会教職者となることを目指す者（「教会教職専攻」志願者）を想定しているが、他の進路を目指す者も受け入れる。

既修得単位認定は、３年次編入であれば、卒業要件のうち、選択科目として各学生の入学前までの学習歴に応じて、60単位を限度に包括単位認定する。**【参考資料⑮：既修得単位の読替表】**

２．履修指導方法

総合神学科への編入学後は、必修であるコア科目及び本人の希望に基づく専攻の指定科目を履修することとなる**【参考資料⑯：３年次編入生の履修単位数】**。教務課職員及び担任教員（専攻担当教員）の指導に基づき、各科目の履修を促す。

なお、編入学生にも寮への入寮は原則求められるが、40歳以上の学生や特別の事情のある学生には、通学が認められる場合もある。

３．教育上の配慮等

編入学生は、他大学卒業者、社会人経験者、シニア層など、幅広い年代や過去の学習歴を持つ者が含まれる。これまでも本学はそのような学生の受け入れを積極的に行い、比較的熱心に学習に取り組む編入学生の存在は、18歳で入学する若い学生にも良い影響を与えてきた。

大学としても、担任制度によるきめ細やかな履修指導などをこれまでも行ってきたが、総合神学科においてもその体制を継続する。その他、通学生やシニア学生同士の交流の機会の提供、特別の事情のある学生についての通学の許可（全寮制要件の緩和）、特に教会教職を目指す学生に対する奨学金の設定などにより、教育上の配慮を行っている。

ＸＩ　管理運営

１．教授会の役割等

本学は神学部単科大学であるため、神学部教授会が全学教授会となる。これについては、総合神学科設置後も変更はない。教授会は、学長・教授・准教授・専任講師及び助教をもって組織し、開催頻度は、原則として学期中の各月毎に１回開催し、必要に応じて臨時に招集することができる。

教授会の役割は、学則第40条に基づき、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べることである。

（１）学生の入学・卒業及び課程の修了
（２）学位の授与
（３）前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定めるもの

上記（３）については「教授会審議事項に関する規程」において、以下の通り定めている。

（１）学科の内容に関する事項
（２）教員の資格審査に関する事項
（３）学生の編入学、退学、休学、転学、復学及び除籍に関する事項
（４）学生の試験、論文に関する事項
（５）教育課程に関する事項
（６）学校の宗教活動に関する事項
（７）学生の指導、及び厚生に関する事項
（８）学生の賞罰に関する事項
（９）諸規程において教授会の議を経ることが定められている事項
（10）その他教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が諮問する事項

なお、大学院研究科に固有の事項を審議するため、研究科専任教員を構成員とする研究科委員会も設置されており、研究科における教授会としての役割を担っている。

２．教授会以外の関連する委員会等の役割

教授会以外の、教学面における管理運営に関連する会議体・委員会として、重要なものには「学務会議」が挙げられる。学務会議の役割は、教授会（及び研究科委員会）審議事項の事前整理・調整、教育・学生支援に関する事項の審議等である。総合神学科設置後の構成員は、学長、副学長、学部長（学科長兼務）、教務部長、教務課長、学生部長、各専攻の責任者等を予定している。その他、教授会の諮問を受けて、本学のカリキュラムの改善の方策について調査・審議し、答申する役割を担う「教育研究・カリキュラム委員会」（構成員：学長・副学長・学部長・専攻責任者・教務部長・学生部長等）がある他、各専攻や、１・２年次共通カリキュラム固有の課題を検討するために、各専攻、共通カリキュラム担当教員による会議等も予定されている。

その他、大学運営全般の処理のために「大学運営会議」がある（構成員：学長・理事長・副学長・学部長・研究科委員長・法人事務局長・各部長・学長室長・各部長補佐・各課長の職にある者等）。管理・運営と関係する事案で大学として決定すべき事項の審議や、理事会に進めて最終決定する審議事項等を取り扱っている。

大学の事務組織は、総務部・教務部・学生部の３つの部と学長室を置いている。その他、附属機関（研究所、図書館等）に事務室を置いている。それぞれの業務の特性に応じ、教員・職員を配置し、教務部と学生部は教員が部長及び部長補佐を務める。また、職員組織の全体を統括する法人事務局長を配置している。

ⅩⅡ　自己点検・評価

本学では、2006(平成18)年に「自己点検・自己評価委員会規程」を定め、同委員会を設置し定期的に点検評価を実施している。委員は、学長を長として副学長、学部長、研究科委員長、専攻責任者、法人事務局長、教務部長、教務課長、担当職員等で構成され、全学的な見地で点検評価を行っている。

2014(平成26)年度には学校教育法に基づき『2014年度自己点検・自己評価書』を作成、2015(平成27)年度に財団法人大学基準協会が実施する第2クールの大学評価（認証評価）を受審、2016(平成28)年3月23日付で「適合」認定を受けた（認定期間2016(平成28)年4月1日～2023(令和5)年3月31日）。その際に受けた努力課題と改善勧告について、2019(令和元)年7月に「改善報告書」をまとめ、大学基準協会へ提出した。

また、過去の自己点検・評価については、次の通りである。2002(平成14)年11月に、報告書『東京基督教大学の現状と課題―自己点検・自己評価への一歩―』と題し、報告書を取りまとめた。2007(平成19)年には『2007年度自己点検・自己評価報告書』を取りまとめ2008(平成20)年度大学基準協会による第1クールの認証評価を受審し「保留」、2010(平成22)年度に再評価を受審し「適合」認定を受けた。以上のように法令に定める通り定期的に自己点検・評価を実施している。

本学では、自己点検・自己評価及び認証評価の結果に基づいて、学部・学科及び各部署における改革・改善を実施している。中長期計画に基づき、また自己点検・自己評価及び認証評価の結果を反映させ、各年度の事業計画を立案し、その結果を点検・評価することにより次年度の事業計画に結びつける PDCA サイクルを実施している。事業計画及び事業報告は、各部署で作成の後、大学運営会議・常任理事会の議を経て理事会で決定する。その間、年に２回監事による業務監査を受けている。自己点検・自己評価委員会は、事業報告における計画の達成について、自己点検・評価項目との関連でチェックする役割を担っている。自己点検・自己評価報告書、認証評価結果、及び単年度の事業計画・事業報告を、本学ウェブサイト上で公表している。

ＸⅢ　情報の公表

本学はウェブサイトにおいて、法令に定められる通りに「大学の基本情報」「教育研究活動に関する情報」「学生支援に関する情報」「学生（入学者・在学生・卒業生）に関する情報」を公表している。

（1）大学の教育研究上の目的に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ 本学の教育研究上の目的）
http://www.tci.ac.jp/info/disclosuretop/academic_info

（2）教育研究上の基本組織に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ 教育研究上の基本組織）
http://www.tci.ac.jp/info/disclosuretop/academic_info

（3）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ 教員組織および教員の業績）
http://www.tci.ac.jp/info/disclosuretop/academic_info

（4）入学者に関する受入方針（アドミッションポリシー）及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他神学及び就職等の状況に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 学生（入学者・在学生・卒業生）に関する情報）
http://www.tci.ac.jp/info/disclosuretop/students

（5）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ Web シラバス）
https://syllabus.tci.ac.jp/

（6）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ ポリシー（本学の方針））
教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）、学位授与方針（ディプロマポリシー）
http://www.tci.ac.jp/info/policies
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ 学修の成果に係る評価及び卒業の認定基準）
科目別必要単位修得数（学部）【学則別表】（pdf）
http://www.tci.ac.jp/wp-content/uploads/2017/09/17beppyou.pdf
科目別必要単位修得数（大学院）【学則別表】（pdf）
http://www.tci.ac.jp/index.php/download_file/view/520/

（7）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 学校法人・大学の基本情報 ＞）　校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境（校舎等の耐震化の状況を含む）
http://www.tci.ac.jp/wp-content/uploads/2019/09/sisetu2019.pdf

（8）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 学校法人・大学の基本情報 ＞ 学生納付金）
http://www.tci.ac.jp/school_life/tuition/

（9）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 学生支援に関する情報）
http://www.tci.ac.jp/info/disclosuretop/support_info

（１０）その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 教育研究活動に関する情報 ＞ 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること）

主要科目の特徴（神学科）
http://www.tci.ac.jp/theology_department/theology_top/curriculum_theology

主要科目の特徴（国際キリスト教学専攻）
http://www.tci.ac.jp/theology_department/icstop/curriculum_ics

主要科目の特徴（キリスト教福祉学専攻）
http://www.tci.ac.jp/theology_department/cswtop/curriculum_csw

（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 情報公表 ＞ 学校法人・大学の基本情報 ＞ 学則・寄附行為等）

東京基督教大学学則
http://www.tci.ac.jp/wp-content/uploads/2017/09/gakusoku2017.pdf

（ホーム ＞ 大学案内 ＞ 大学評価）
http://www.tci.ac.jp/info/hyoka

ＸⅣ　教育内容等の改善を図るための組織な研修等

「ファカルティ・ディベロップメント（ＦＤ）委員会規程」に基づき、学部長、教務部長等からなるＦＤ委員会が設置され、教員の資質維持・向上のための組織的なプログラムを実施しているが、総合神学科においても継続する。教員の授業改善のためには、講演会、定期的読書会、ＩＴ教育やシラバス作成のためのワークショップ、学生による授業評価アンケート、教員による授業相互評価等を行っている。毎年、前年度の「ＦＤ活動報告書」を専任・兼任教員及び教学担当職員に配付し、ＦＤ活動に関する講演会やワークショップの内容の周知を図り、教育研究活動の改善に役立てるよう配慮している。また専任教員に関しては、ティーチング・ポートフォリオを含むアカデミック・ポートフォリオの作成・提出を年度末に行って、教員の教育研究活動等の自己点検・評価を実施している。さらに教育能力の向上のために、外部の研修会等に教員を派遣している。これらについては、総合神学科設置後も継続する予定である。

〔スケジュールと内容〕

春学期

・第１回ファカルティ・フォーラム

・学生による授業評価アンケート

秋学期

・前年度『ファカルティ・ディベロップメント活動報告書』作成・配付

・第２回ファカルティ・フォーラム

・学生による授業評価アンケート

冬学期

・学生による授業評価アンケート

・第３回ファカルティ・フォーラム

随時

・新任教員研修

・教員による授業相互評価

・外部研修参加

・教授会時の成績評価方法等に関する研修

ＸＶ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

本学のキャリア支援は、卒業時の一時的な就業支援のみならず、クリスチャンとして卒業後の生涯の歩みを視野に入れ、キャリアプランを実践的に計画することができるように支援する。

（１）教育課程内の取組について

教養科目の中に1年次入学生指定科目として「キャリア教育」を設置し、クリスチャンとして社会で働くことの職業観を養えるように構成されている**【参考資料⑰：「キャリア教育」シラバス】**。具体的には卒業後の進路を視野に入れ、キャリアプランを実践的に取り組むことができるようにクリスチャンとして現場で活躍している様々な分野のプロフェッショナルズを迎えて、学生では気付きにくい視点で働くことを体感できるようにする。更に、1年次からの連続性を保てるように2年次から専門科目（統合科目）の中に「実習Ａ（キャリアインターンシップ）」科目を設置している**【参考資料⑱：「キャリアインターンシップ」シラバス】**。「キャリアインターンシップ」科目は、主体的な職業選択や高い職業意識の育成を図ることができるように企業等で実習を行い、自己の職業適性や将来設計について具体的に考えることができる機会を提供する。

（２）教育課程外の取組について

主に2年生以上を対象に、就職活動をバックアップする「就活スタートアップ対策講座」「キャリア開発支援講座」「SPI 対策講座」「留学生就職支援講座」等や学内で行う企業単独説明会を実施する。進路相談を担当する教職員を配置し、希望と適正に応じてマンツーマンで面接対策や添削指導を行い学生のニーズに対応した進路支援を行う。

（３）適切な体制の整備について

学生部にキャリア支援室を設置し、キャリアカウンセラー有資格者の室長と職員を置く。また、キャリア支援室の担当職員を常時配置させることで学生がいつでも利用しやすいように配慮する。また、寮主事、教務課、学生相談室等との連携を密にすることにより、卒業後の進路相談のみならず在学中の修学相談についても円滑に対応可能な体制を整え、様々な課題をかかえている学生に対して手厚いサポートができるように配慮する。

参考資料目次

参考資料①：教職員プロジェクト会議資料
参考資料②：建学の精神
参考資料③：現在の学部・学科の教育目標等
添付資料④：専攻指定科目
添付資料⑤：特任教員に関する規程
添付資料⑥：特別教授に関する規程
参考資料⑦：科目ナンバリングについて
参考資料⑧：科目区分における配当年次の例
参考資料⑨：カリキュラムマップ案
参考資料⑩：授業時間について
参考資料⑪：卒業要件単位数の内訳
参考資料⑫：学年別履修モデル
参考資料⑬：予定時間割
参考資料⑭：予定実習一覧
参考資料⑮：既修得単位の読替表
参考資料⑯：３年次編入生の履修単位数
参考資料⑰：「キャリア教育」シラバス
参考資料⑱：「キャリアインターンシップ」シラバス

【参考資料①：教職員プロジェクト会議資料】

11 月 19 日(木)教職員プロジェクト会議資料

第一次神の国に仕えるプロジェクト 20151020 理事会決定

＜コンセプト＞

「関わる皆に神様の祝福を取り次ぐ喜びを共にする TCU」

＜概略＞

１． TCU の目指す夢 10（Ver.8）

２．（別表のポイント）

①学生数：290 人（に匹敵する収入 2 億 9,800 万円）。

②寄付金 1 億 2500 万円。

③賞与２か月を基本に想定。

④資金の収支、基本金組入前(帰属)収支、当年度(消費)収支 が均衡する。

⑤到達に 8 年、16 年、20 年。

⑥資金は流出するが、20 億円は切らない。

⑦施設の更新への準備も開始する。

＜行動目標の 4 分野＞

【１】人材像・ポリシー・学生募集

【２】寄付金募集

【３】支出考察

【４】その他

＜計画実行後の評価基準＞

① 計画内容をどれだけ実践したか。

② 財務 20 年計画表の数値目標に対する達成度。

＜添付資料リスト＞

①財務 20 年計画表 (p. 2)

②4 分野の行動目標 (p. 3-17)

③2005-2015 学内奨学金実績、奨学金に関するグラフ (p. 18-20)

【参考資料②：建学の精神】

東京キリスト教学園は、三校（東京キリスト教短期大学、日本基督神学校、共立女子聖書学院）で培われた全人格的教育という良い伝統を継承し、21世紀の世界にふさわしい、「学び・生活・伝道」を兼備した教職者および信徒の奉仕者を育成する。

１、福音主義

聖書を誤りのない神のことばと信じ、かつ信仰と生活の唯一の規範とする福音主義に立って、正統的な神学に基礎づけられた教職者および奉仕者を育成する。

２、超教派

超教派の神学教育に実績を持つ東京キリスト教学園にあって、教派を超えて日本の内外の諸教会と社会に奉仕し、その発展に寄与できる人材を育成する。

３、実践的神学教育

福音主義諸教会や諸団体の期待と要望に応えるために、実践的神学を深め、教会と社会に仕える姿勢、行動力や指導力を養い、福音を肌で感じさせる人材を育成する。

４、世界宣教

宣教の主イエス・キリストの大命令に応えて、世界各国とりわけアジア諸国に、キリストのからだである教会を建て上げる働き人として、宣教師や奉仕者を送り出す。

（1979年制定「建学の精神」の要約として2005・5・24理事会決定）

＜東京基督教大学の建学の精神＞

「プロテスタント福音主義信仰に立ち、教派を超えて21世紀の教会と社会に奉仕する世界宣教の働き人を育成するために、実践的な神学教育を施す。」

（2007年（平成19年）10月23日理事会決定）

【参考資料③：現在の学部・学科の教育目標等】

1　神学部

本学部は、キリスト教世界観に立つリベラル・アーツ教育による幅広い教養と、神学・国際キリスト教学（異文化理解と国際貢献）・キリスト教福祉学（介護福祉）の専門教育に加え、少人数人格教育を提供することにより、キリスト教信仰に立ち、教会と社会に仕える働き人を育成することを目的とする。
（学部規則第２条）

1．1　神学部神学科

神学科は、キリスト教リベラル・アーツ教育による幅広い教養に基づき、神学の専門基礎教育をとおして、キリスト教の教職者・教職候補者のみならず、広く教会と社会に貢献する人材を養成することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅰ）

1.1.1　神学部神学科神学専攻

神学専攻は３年次から、広く教会と社会に貢献することを希望する者に対して、旧約聖書学、新約聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学、および、ユースミニストリー・教会音楽等の特化した学びか、または幅広く多岐にわたる神学の学びを提供することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅰ（１））

1.1.2　神学部神学科教会教職専攻

教会教職専攻は３年次から、将来教会教職を希望する者に対して、ギリシア語、ヘブライ語をはじめ総合的な神学教育カリキュラムを提供し、本学大学院または、他の大学院レベルでの神学教育に備えるための専門基礎教育を行うことを目的とする。なお、神学専攻以外の他大学の卒業生に関しても3年次から本専攻に受け入れる。
（学部規則第３条Ⅰ（２））

1.1.3　神学部神学科アジア神学コース

アジア神学科コースは、アジアという地域に置かれている日本で、キリスト教リベラル・アーツ教育をはじめ専門科目に至るまで、英語で提供される授業のみで卒業可能なプログラムを持つコースである。在学中を通しクラスや寮などにおいて日本語と日本文化を学ぶことが求められる。卒業後は、日本で築いた様々なネットワークを用いて自国と日本の架け橋となるクリスチャンリーダーを養成することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅰ（ア））

1.1.4　神学部神学科シニアコース

シニアコースは、人生経験や社会経験を生かし、牧師・伝道師・牧師補佐・個人伝道者としてキリスト教会において仕えることを目指す人材を育成することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅰ（イ））

１.２　神学部国際キリスト教福祉学科

国際キリスト教福祉学科は、神学的視点と国際学的視点及び福祉的視点とを兼ね備え、国内外で、教育、出版、宣教、福祉など多様な活動において、指導的な役割を果たしうる人材を養成することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅱ）

1.2.1　神学部国際キリスト教福祉学科国際キリスト教学専攻

国際キリスト教学専攻は、福音主義神学の基礎を修めるとともに、英語と専門言語、異文化理解、国際関係論といったカリキュラムを充実し、国際ＮＧＯ職員、公務員、一般企業会社員、宣教師等に加え、上級神学校進学、国内外大学院進学を通してキリスト教の教職者を目指す人材養成を目的とする。
（学部規則第３条Ⅱ（１））

1.2.2　神学部国際キリスト教福祉学科キリスト教福祉学専攻

キリスト教福祉学専攻は、人々の生活の拠点である地域社会において「新しい福祉文化の創造」を担う幅広い視野をもった福祉の専門職業人（介護福祉士）、または福祉に関連する職業人を養成することを目的とする。
（学部規則第３条Ⅱ（２））

【添付資料④：専攻指定科目】

教会教職

科目名	単位数
教養科目　教会音楽から	2 単位以上
聖書言語科目から	8 単位以上
聖書学科目から	8 単位以上
実践神学科目から	8 単位以上
組織神学・歴史神学科目から	8 単位以上
ユース科目から	2 単位以上
演習科目から	4 単位
合計単位数	40 単位

キリスト教福祉

科目名	単位数
キリスト教福祉 Ⅰ（人間の尊厳と自立）	2
キリスト教福祉 Ⅱ（人間関係とコミュニケーション）	2
キリスト教福祉 Ⅲ（社会福祉論）	2
キリスト教福祉 Ⅳ（キリスト教公共福祉論）	2
キリスト教福祉 Ⅴ（介護福祉）	2
キリスト教福祉 Ⅵ（こころとからだのしくみ）	2
キリスト教福祉 Ⅶ（生活支援技術）	2
キリスト教福祉 Ⅷ（介護過程）	2
キリスト教福祉 Ⅸ（障がいの理解）	2
キリスト教福祉 Ⅹ(精神保健福祉論)	2
専門演習(キリスト教福祉)	2
実習A(福祉)	2
グローバル・スタディーズⅦ(リーダーシップと組織マネジメント)	2
グローバル科目から	4
聖書学、組織神学・歴史神学科目から	6
教養科目(1年次指定科目・実技科目以外)から	4
合計単位数	40

ユース・スタディーズ

科目名	単位数
ユース・ミニストリー Ⅰ（神学と実践）	2
ユース・ミニストリー Ⅱ（思春期の理解）	2
キリスト教教育 Ⅰ（神学と理念）	2
キリスト教教育 Ⅱ（方法と実践）	2
専門演習(ユース Ⅰ)	2
専門演習(ユース Ⅱ)	2
実習A(ユース Ⅰ)	2
実習B(ユース Ⅱ)	2
卒業研究（個人) A	6
実践神学 Ⅱ（メッセージの方法と実践）	2
社会科学3(心理学 Ⅰ)	2
社会科学4(心理学 Ⅱ)	2
教会音楽1(ミュージックミニストリー)	2
実践神学 Ⅴ（宣教学）	2
組織神学・歴史神学、聖書学科目から	8
	40

グローバル・スタディーズ

グローバル区分	科目区分	科目名	単位数	専攻要件
専攻コア科目	グローバル	グローバル・スタディーズ Ⅰ（異文化理解）	2	4
	グローバル	グローバル・スタディーズ Ⅱ(グローバル・スタディーズ入門)	2	
	グローバル	Global Studies I: Intercultural Communication	2	
	グローバル	Global Studies II: Introduction to Global Studies	2	
専攻科目	グローバル	グローバル・スタディーズⅢ(地域文化論：日本)Global Studies III: Japanese Arts and Aesthetics	2	10
	グローバル	グローバルⅣ(地域文化論：韓国)	2	
	グローバル	グローバル・スタディーズⅤ(文化人類学と宣教)	2	
	グローバル	グローバル・スタディーズⅥ(国際協力論)	2	
	グローバル	グローバル・スタディーズⅦ(リーダーシップと組織マネジメント)	2	
	グローバル	グローバル・スタディーズⅨ(地域文化論：アフリカ)Global Studies IX: Introduction to African Culture	2	
	グローバル	Global Studies V: International Development	2	
	グローバル	Global Studies VI: Religion and Public Policy	2	
	グローバル	Global Studies VII: Religion and Society in Japan	2	
	グローバル	Global Studies VIII: Japan Encounters the West	2	
	グローバル	Global Studies X: Crucial Issues in Asia	2	
	実践神学	実践神学V(宣教学)	2	
	実践神学	Practical TheologyII: Missiology	2	
	教養	社会科学5(平和学)	2	
専攻選択科目	組織神学・歴史神学	歴史神学 Ⅰ（古代・中世）	2	8
	組織神学・歴史神学	歴史神学 Ⅱ（宗教改革・近現代）	2	
	歴史神学・組織神学	歴史神学Ⅵ(日本キリスト教通史)	2	
	歴史神学・組織神学	Christian History and Tradition I: Ancient and Medieval Church History	2	
	歴史神学・組織神学	Christian History and Tradition II: The Reformation and Modern Church History	2	
	歴史神学・組織神学	Christian History & Tradition VI: Japanese Church History	2	
	実践神学	Practical Theology IV: Christian Ethics	2	
	教養	人文2（西洋思想）	2	
	教養	人文3（東洋思想）	2	
	教養	人文4（キリスト教倫理）	2	
	教養	Survey of Western Philosophy	2	
	教養	Great Books I - XII:	2+	
	グローバル	Global Studies IV: TESOL	2	
	グローバル	グローバル・スタディーズⅧ(日本語教育)	2	
言語科目	語学(現代言語)	Total English (2年目以降)	8	10
	語学(現代言語)	韓国語 Ⅰ	1	
	語学(現代言語)	韓国語 Ⅱ	1	
	語学(現代言語)	韓国語 Ⅲ	1	
	語学(現代言語)	中国語 I(言語学習と台湾文化入門)	2	
	語学(現代言語)	中国語 II	1	
	語学(現代言語)	Individually Adapted English Class (IAEC)	1-9	
	演習・実習・卒業研究	実習C (海外語学研修)	6	
	語学（現代言語）	Intermediate Japanese Language and Culture	3-9	
	語学（現代言語）	Advanced Japanese Language and Culture	2+	
	語学（現代言語）	Japanese Extensive Reading and Listening	2+	
	語学（現代言語）	Mastering Kanji	1+	
実習科目	演習・実習・卒業研究	専門演習 (グローバル)	2	8
	演習・実習・卒業研究	実習A (グローバル)	2	
	演習・実習・卒業研究	実習B (グローバル)	4	
	演習・実習・卒業研究	実習C (グローバル)	6	
	演習・実習・卒業研究	卒業研究（個人) A	6	
	演習・実習・卒業研究	卒業研究(協働) B	4	
		合計単位数	40	

※「神学教養専攻」は、コア科目を除くすべての科目が指定科目である

【添付資料⑤：特任教員に関する規程】

（目的）

第１条　この規程は、就業規則第１４条第３項に基づき、定年後の教育職員（以下「教員」という。）の継続雇用を定めることを目的とする。

（呼称）

第２条　定年退職後、本規程に基づき引き続き在職する教員は、特任教員と称する。

２　辞令簿には、教員の職位（教授、准教授、講師、助教、助手）の上に「特任」の語を付し、「特任教授」等と記載される。

３　一般に呼称される場合は、特任の語を略し、「教授」等と称しても差し支えない。

（就任）

第３条　定年退職後、希望する教員で、解雇事由又は退職事由に該当しない場合は、原則として満65歳に達する日まで、特任教員として在職することができる。

（任期）

第４条　特任教員には任期を付し、その任期は１年を超えないものとする。ただし、更新を妨げない。

２　任期の末日は原則として３月31日とする。

３　任期の更新は、更新直前の契約期間において勤務成績が良好である者について行うことができる。

（上限年齢）

第５条　特任教員の上限年齢は、満65歳とし、前条の規定による契約期間は、満65歳に達する日以後の最初の３月31日以前でなければならない。

２　任命権者及び学校長が特に必要と認める場合は、特任教員の上限年齢を、満70歳に延長することができる。この場合、前条の規定による契約期間は、満70歳に達する日以後の最初の３月31日以前でなければならない。

（職位・昇格）

第６条　定年退職後特任教員として就任する際の職位は、原則として定年退職前の職位を維持するものとする。

２　特任教員は、その就任の途中で昇格させることができる。その際の手続は、教員選考規程等の定めにより、専任教員に準じて行われる。

（担当科目等）

第７条　担当科目と時間数等は学校長の委嘱によって定める。

（出勤日数）

第８条　出勤日数は研究日を除いて３日以上とし、教育と学生指導等にあたる。

（基本給の額）

第９条　基本給の額は別に定める。

（賞与）

第１０条　給与規程第２０条に規定する賞与は支給する。ただし、支給額は減額される。

（諸手当の支給）

第１１条　各種手当の支給については別に定める。

（社会保険）

第１２条　特任教員のうち、１週間の勤務時間及び１か月間の勤務日数が、おおむね専任教員の４分の３以上である者は、私学共済保険に加入する。ただし、他に本業を持ち、主たる生計の途が他にある者を除く。

（雇用保険）

第１３条　特任教員は、原則として雇用保険に加入する。

２　特任教員のうち、１年以上引き続き雇用されることが見込まれないか、又は１週間の労働時間が20時間未満の者は、雇用保険に加入しない。

３　特任教員のうち、65歳以上の者は、雇用保険に加入できない。

（研究費等）

第１４条　研究費、学会出張費、研究室は専任教員に準じて取扱うものとする。

（教授会への出席）

第１５条　学長又は教授会議長は、必要ある場合は、特任教員を教授会に出席させることができる。ただし、当該特任教員が大学院担当の専任教員である場合は、教授会及び研究科委員会の構成員とならなければならない。

（協議）

第１６条　この規程に定めがない事項については、学校長と本人との協議によって定める。

（改廃）

第１７条　この規程の改廃は、教授会の議を経て理事会が行う。

【添付資料⑥：特別教授に関する規程】

（目的）

第１条　この規程は、東京基督教大学（以下「本学」という）に「特別教授」を設けるために、必要な事項を定めることを目的とする。

２　本学は、既存の範疇に属さない教員を任用する際、特別教授として任用することができる。

（特別教授の任用）

第２条　特別教授を新たに採用する場合、学長は人事委員会に候補者を推薦する。人事委員会は、候補者が特別教授として採用するにふさわしいかどうかを審議し、推薦の可否を学長に回答する。学長は人事委員会の推薦に基づき、教授会に提案する。

２　特別教授任用を審議する教授会は、学長および専任教授をもって構成する教授会とする。

３　学長は、教授会で承認された場合、第７条を満たした後に、候補者を特別教授として任用する。

（専任教員の特別教授への変更）

第３条　すでに本学の専任教員である者が特別教授の立場に変更される場合には、当人の承認を必要とする。

２　専任教員を特別教授へ変更する場合、事前に、学長は人事委員会に諮問し、教授会にその旨を報告しなければならない。

（待遇）

第４条　特別教授の給与、賃金、賞与、その他福利厚生を含める待遇については、規程の枠内でこれを学長が定める。

（任期）

第５条　特別教授の任期は、これを学長が定める。

２　特別教授には、専任教員の定年は適用されない。

（就業時間・就業場所）

第６条　特別教授の就業時間や就業場所は、特別教授の同意に基づいて学長が定める。ただし、当該特別教授が大学院担当の専任教員である場合は、特任教員の場合と同様とする。

（理事会の関与）

第７条　第１条から第６条に関して、学長は、すべての決定を理事会に報告し、理事会の同意を得なければならない。

（職務）

第８条　特別教授の職務は第４条から第６条に関する決定との関連で学長が定める。

２　特別教授の職務を決定する際、学長は学部長に相談しなければならない。また必要に応じて、他の者の意見を聞くこともできる。

（教授会等への出席）

第９条　学長は特別教授を陪席者として教授会に招くことができる。ただし、必要ある場合は、特別教授を教授会構成員とすることができる。

２　本人の同意がある場合、教授会又は研究科委員会は特別教授を委員などに選出することができる。

３　本人の同意がある場合、学長は特別教授を様々な役職に任用することができる。

４　当該特別教授が大学院担当の専任教員である場合は、教授会及び研究科委員会の構成員とならなければならない。

（改廃）

第１０条　この規程の改廃は、教授会の議を経て理事会が行う。

【参考資料⑦：科目ナンバリングについて】

Ⅳ．科目ナンバリングと科目名称のルール

例１

科目ナンバリング	科目名称
ＦＡＳＩ　０　Ｉ　Ｊ	**基礎演習Ａ**
①　②　③　④　⑤　⑥	⑦

例２

科目ナンバリング	科目名称
ＩＭＳ３０３０Ｊ	**専門演習（ユースⅠ）**
①　②　③　④　⑤⑥	⑦

①**「科目区分」**　英語表記の省略形（左端のⅠ桁のアルファベット）

C･･･TCU コア		
FY･･･初年次教育	HU･･･人文学	SS･･･社会科学
GB･･･Great Books	CM･･･教会音楽	PE･･･スポーツ
EN･･･英語	JA･･･日本語	KO･･･韓国語
CN･･･中国語	BH･･･聖書言語(ヘブライ語)	BG･･･聖書言語(ギリシア語)
BS･･･聖書学	SH･･･組織・歴史神学	PT･･･実践神学
YS･･･ユース・スタディーズ	CW･･･キリスト教福祉	GS･･･グローバル・スタディーズ
I･･･TCU 統合		

言語科目は除く。

②**「科目名」**　英語表記の省略形（左端から２、３桁のアルファベット）

③**「履修目安年次」**（左からⅠつ目の数字）

Ⅰ･･･第Ⅰ年次　２･･･第２年次　３･･第３年次　４･･･第４年次

④　**「専門実習、演習科目」**（左から２つ目の数字Ⅰ桁）

Ⅰ･･･教会教職　２･･･グローバル　３･･ユース　４･･･キリスト教福祉　５･･･神学教養

⑤**「同一科目名（基礎演習、Total English）クラス識別」**（左からⅠつ目の数字Ⅰ桁）

Ⅰ･･･Ａ　　２･･･Ｂ　　３･･Ｃ　　４･･･Ｄ

⑥**「授業提供言語」**（右端のアルファベットⅠ文字）

Ｊ･･･日本語科目　Ｅ･･･英語科目　Ｂ･･･バイリンガル科目　　Ｌ･･･言語科目

音楽個人レッスン、クワイア、スポーツは、Ｊ科目として開講

⑦**「科目名称後の記号」**

アラビア数字：　Ⅰ、２、３、４～･･･履修順序（あり）
ローマ数字：　　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ～･･･履修順序（なし）
アルファベット：Ａ、Ｂ、Ｃ　～　　･･･クラス別

日本語	英語	科目ナンバリング	科目名
1		CTS100J	TCUスタンダード
2		CCW101J	キリストと世界 I（神学）
3		CCW102J	キリストと世界 II（新約）
4		CCW203J	キリストと世界 III（旧約）
5		CSD200J	霊的形成
6		CCF100J	クリスチャンライフ・フォーメーション 1
7		CCF200J	クリスチャンライフ・フォーメーション 2
8		CCF300J	クリスチャンライフ・フォーメーション 3
9		CCF400J	クリスチャンライフ・フォーメーション 4
	1	CTS100E	TCU Standard
	2	CCW101E	Christ and the World I: Issues Facing the Church Today
	3	CCW102E	Christ and the World II: Issues Facing the Church through Time
	4	CCW203E	Christ and the World III: Issues Facing Ancient Israel and the Early Church
	5	CSD200E	Spiritual Development
	6	CCF100E	Christian Life Formation 1
	7	CCF200E	Christian Life Formation 2
	8	CCF300E	Christian Life Formation 3
	9	CCF400E	Christian Life Formation 4
1		GFY111J	基礎演習 A
		GFY112J	基礎演習 B
		GFY113J	基礎演習 C
2		GFY120J	情報リテラシー
3		GFY130J	キャリア教育
4		GHU101J	人文学 I（文学）
5		GHU102J	人文学 II（西洋思想）
6		GHU203J	人文学 III（東洋思想）
7		GHU204J	人文学 IV（キリスト教倫理）
8		GHU305J	人文学 V（キリスト教哲学）
9		GSS101J	社会科学 I（保育学）
10		GSS102J	社会科学 II（女性と社会）
11		GSS203J	社会科学 III（心理学 I）
12		GSS204J	社会科学 IV（心理学 II）
14		GSS305J	社会科学 VI（言語学）
15		GCM101J	教会音楽 I（ミュージックミニストリー）
16		GCM202J	教会音楽 II（教会音楽の歴史）
17		GCM203J	教会音楽 III（教会音楽の実際）
18	1	GCM114～414J/E	教会音楽 IV（クワイア1～4）
19	2	GCM125～425J/E	教会音楽 V（オルガンレッスン1～4）
20	3	GCM136～436J/E	教会音楽 VI（ピアノレッスン1～4）
21	4	GCM147～447J/E	教会音楽 VII（声楽レッスン1～4）
22	5	GCM158～458J/E	教会音楽 VIII（ギターレッスン1～4）
23	6	GPE101J/E	スポーツ I
24	7	GPE102J/E	スポーツ II

【参考資料⑧：科目区分における配当年次の例】

	ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	科目名	配当年次	区分
聖書学	SBS201J	聖書学 Ⅰ（旧約通論）	2年	（概論）
	SBS202J	聖書学 II（福音書）	2年	（重要）
	SBS303J	聖書学 III（モーセ五書）	3年	
	SBS304J	聖書学 IV（預言書・聖文書）	3年	
	SBS305J	聖書学 V（書簡）	3年	
組織神学	SSH201J	組織神学 Ⅰ（神論・人間論・キリスト論）	2年	（概論）
	SSH202J	組織神学 II（救済論・教会論・終末論）	2年	（概論）
	SSH203J	歴史神学 Ⅰ（古代・中世）	2年	（概論）
	SSH204J	歴史神学 II（宗教改革・近現代）	2年	（概論）
	SSH305J	歴史神学 III（旧約聖書史/考古学）	3年	
	SSH306J	歴史神学 IV（第二神殿時代史/考古学）	3年	
	SSH307J	歴史神学 V（信条学）	3年	
	SSH308J	歴史神学 VI（日本キリスト教通史）	3年	

【参考資料⑨：カリキュラムマップ案】

カリキュラムマップⅠ(ディプロマポリシーと科目の関係)　案

建学の精神	Ⅰ．福音主義　２．超教派神学教育　３．実践的神学教育　４．世界宣教
教育目標	東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。
ディプロマポリシー	東京基督教大学では、所定の期間在学し、本学の「教育目標」に沿って設定された授業科目を履修して、基準となる単位を修得し、卒業判定に合格することが学位授与の要件となっています。学生のために準備された学びには、講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチが含まれます。 以下の基準を満たしている者に学位が授与されます。 DP1：プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。 DP2：東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。 DP3：修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。 DP4：クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。 DP5：神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

科目区分	科目名	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
コア科目	TCUスタンダード	6	◎	◎		◎	◎
	キリストと世界 I（神学）	2	◎	○			
	キリストと世界 II（新約）	2	○	○			
	キリストと世界 III（旧約）	2	○	○			
	霊的形成	2		○		◎	○
	クリスチャンライフ・フォーメーション 1	4	○	○		○	○
	クリスチャンライフ・フォーメーション 2	4	○	○		○	○
	クリスチャンライフ・フォーメーション 3	4	○	○		○	○
	クリスチャンライフ・フォーメーション 4	4	○	○	○	○	○
	TCU Standard	6	◎	◎		◎	◎
	Christ and the World I: Issues Facing the Church Today	2	◎	○			
	Christ and the World II: Issues Facing the Church through Time	2	○	○			
	Christ and the World III: Issues Facing Ancient Israel and the Early Church	2	○	○			
	Spiritual Development	2				○	
	Christian Life Formation 1	4	○	○		○	○
	Christian Life Formation 2	4	○	○		○	○
	Christian Life Formation 3	4	○	○		○	○
	Christian Life Formation 4	4	○	○	○	○	○
教養科目	基礎演習 A B C	2				○	
	情報リテラシー	2				○	
	キャリア教育	2				○	
	人文 I（文学）	2		○		○	
	人文 II（西洋思想）	2				○	
	人文 III（東洋思想）	2				○	○
	人文 IV（キリスト教倫理）	2			○	○	
	人文 V（キリスト教哲学）	2	○			○	
	社会科学 I（保育学）	2				○	
	社会科学 II（女性と社会）	2				○	
	社会科学 III（心理学 I）	2				○	○
	社会科学 IV（心理学 II）	2				○	○
	社会科学 V（平和学）	2			○	○	○
	社会科学 VI（言語学）	2				○	○
	教会音楽 I（ミュージックミニストリー）	2			○	○	○
	教会音楽 II（教会音楽の歴史）	2			○	○	○
	教会音楽 III（教会音楽の実際）	2				○	○
	教会音楽 IV（クワイア1～4）Choir	2					○
	教会音楽 V（オルガンレッスン1～4）Organ Lesson	2				○	○
	教会音楽 VI（ピアノレッスン1～4）Piano Lesson	2				○	○
	教会音楽 VII（声楽レッスン1～4）Voice Lesson	2				○	○
	教会音楽 VIII（ギターレッスン1～4）Guitar Lesson	2				○	○
	スポーツ I　Physical Education I	1				○	
	スポーツ II　Physical Education II	1				○	
	Academic Research and Writing	2				○	
	Psychology I	2				○	○
	Psychology II	2				○	○
	Survey of Western Philosophy	2				○	
	Great Books I: Western Philosophy	2				○	
	Great Books II: Japanese Literature	2				○	
	Great Books III: Sacred Books of the East	2				○	
	Great Books IV: Christian Classics	2				○	
	Great Books V: 19th & 20th Century Novels	2				○	
	Great Books VI: Social Sciences	2				○	
	Great Books VII: Natural Sciences	2				○	

建学の精神		Ⅰ．福音主義　２．超教派神学教育　３．実践的神学教育　４．世界宣教
教育目標		東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。
ディプロマポリシー		東京基督教大学では、所定の期間在学し、本学の「教育目標」に沿って設定された授業科目を履修して、基準となる単位を修得し、卒業判定に合格することが学位授与の要件となっています。学生のために準備された学びには、講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチが含まれます。 以下の基準を満たしている者に学位が授与されます。 DP1：プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。 DP2：東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。 DP3：修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。 DP4：クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。 DP5：神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

科目区分	科目名	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
語学（現代言語）	Total English I-A B C	4				○	
	Total English 2-A B C	4				○	
	Total English 3-A B C	1				○	
	Pre-EISA（海外英語研修準備）	1				○	
	EISA（海外英語研修）	4				○	
	韓国語 Ⅰ（基礎）	2				○	
	韓国語 2（初級）	2				○	
	韓国語 3（中級）	2				○	
	中国語 Ⅰ（基礎と台湾文化入門）	2				○	
	中国語 2（初級）	2				○	
	Elementary Japanese Language and Culture I	4				○	
	Elementary Japanese Language and Culture 2	4				○	
	Elementary Japanese Language and Culture 3	4				○	
	Intermediate Japanese Language and Culture I	4				○	
	Intermediate Japanese Language and Culture 2	4				○	
	Intermediate Japanese Language and Culture 3	4				○	
	Advanced Japanese Language and Culture I	2				○	
	Advanced Japanese Language and Culture 2	2				○	
	Advanced Japanese Language and Culture 3	2				○	
	Japanese Extensive Reading and Listening I	2				○	
	Japanese Extensive Reading and Listening 2	2				○	
	Japanese Extensive Reading and Listening 3	2				○	
	Mastering Kanji I	1				○	
	Mastering Kanji 2	1				○	
	Mastering Kanji 3	1				○	
語学（聖書言語）	ヘブライ語 Ⅰ（文法Ⅰ）	2	○		○		○
	ヘブライ語 2（文法2）	2	○		○		○
	ヘブライ語 3（文法3）	2	○		○		○
	ヘブライ語 4（講読Ⅰ）	1	○		○		○
	ヘブライ語 5（講読2）	1	○		○		○
	ギリシア語 Ⅰ（文法Ⅰ）	2	○		○		○
	ギリシア語 2（文法2）	2	○		○		○
	ギリシア語 3（文法3）	2	○		○		○
	ギリシア語 4（講読Ⅰ）	1	○		○		○
	ギリシア語 5（講読2）	1	○		○		○
聖書学	聖書学 Ⅰ（旧約通論）	2		○	○		○
	聖書学 II（福音書）	2		○	○		○
	聖書学 III（モーセ五書）	2	○		○		○
	聖書学 IV（預言書・聖文書）	2	○		○		○
	聖書学 V（書簡）	2	○		○		○
	Biblical Studies I: Old Testament Survey	2		○	○		○
	Biblical Studies II: New Testament Survey	2		○	○		○
	Biblical Studies III: Approaches to Biblical Interpretation	2	○	○	○		○
	Biblical Studies IV: Topics in Biblical Theology	2	○		○		○
	Biblical Studies V: Selected Biblical Books	2	○		○		○
実践神学	実践神学 Ⅰ（説教学）	2	○	○	○		○
	実践神学 II（メッセージの方法と実践）	2			○	○	○
	実践神学 III（説教演習）	2			○		○
	実践神学 IV（礼拝学）	2	○	○	○		○
	実践神学 V（宣教学	2			○	○	○
	実践神学 VI（牧会学）	2			○	○	○
	実践神学 VII（牧会カウンセリング）	2			○	○	○
	Practical Theology I: Introduction to Christian Ministry in Japan	2		○	○		○
	Practical Theology II: Missiology	2			○	○	○
	Practical Theology III: Public Speaking: Theory and Practice	2			○	○	○
	Practical Theology IV: Christian Ethics	2			○	○	
	Practical Theology V: Christian Education	2			○	○	
	Practical Theology VI: Christian Apologetics: Defending Faith with Reason	2			○	○	○
	Practical Theology VII: Philosophy and Theology of Music	2			○	○	○

建学の精神		Ⅰ．福音主義　２．超教派神学教育　３．実践的神学教育　４．世界宣教
教育目標		東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいたキリスト教世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。
ディプロマポリシー		東京基督教大学では、所定の期間在学し、本学の「教育目標」に沿って設定された授業科目を履修して、基準となる単位を修得し、卒業判定に合格することが学位授与の要件となっています。学生のために準備された学びには、講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチが含まれます。 以下の基準を満たしている者に学位が授与されます。 DP1：プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。 DP2：東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。 DP3：修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。 DP4：クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。 DP5：神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。

科目区分	科目名	単位	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
組織神学・歴史神学	組織神学Ⅰ(神論・人間論・キリスト論)	2	○		○		○
	組織神学Ⅱ(救済論・教会論・終末論)	2	○		○		○
	歴史神学Ⅰ(古代・中世)	2			○		○
	歴史神学Ⅱ(宗教改革・近現代)	2	○		○		○
	歴史神学Ⅲ(旧約聖書史/考古学)	2			○		○
	歴史神学Ⅳ(第二神殿時代史/考古学)	2			○		○
	歴史神学Ⅴ(信条学)	2	○		○		○
	歴史神学Ⅵ(日本キリスト教通史)	2		○	○		○
	Christian History and Tradition Ⅰ: Ancient and Medieval Church History	2			○		○
	Christian History and Tradition Ⅱ: The Reformation and Modern Church History	2	○		○		○
	Christian History and Tradition Ⅲ: The Heidelberg Catechism	2	○		○		○
	Christian History and Tradition Ⅳ: Science and Religion	2			○	○	○
	Christian History and Tradition Ⅴ: Systematic Theology	2	○		○		○
	Christian History and Tradition Ⅵ: Japanese Church History	2		○	○		○
スタディーズ コース	ユース・ミニストリーⅠ(神学と実践)	2			○	○	○
	ユース・ミニストリーⅡ(思春期の理解)	2			○	○	
	キリスト教教育Ⅰ(神学と理念)	2			○	○	
	キリスト教教育Ⅱ(方法と実践)	2			○	○	
キリスト教福祉	キリスト教福祉Ⅰ(人間の尊厳と自立)	2				○	
	キリスト教福祉Ⅱ(人間関係とコミュニケーション)	2				○	
	キリスト教福祉Ⅲ(社会福祉論)	2				○	
	キリスト教福祉Ⅳ(キリスト教公共福祉論)	2			○	○	
	キリスト教福祉Ⅴ(介護福祉)	2				○	
	キリスト教福祉Ⅵ(こころとからだのしくみ)	2				○	
	キリスト教福祉 Ⅶ（生活支援技術）	2				○	
	キリスト教福祉 Ⅷ（介護過程）	2				○	
	キリスト教福祉 Ⅸ（障がいの理解）	2				○	
	キリスト教福祉 Ⅹ（精神保健福祉論）	2				○	
グローバル・スタディーズ	グローバル・スタディーズ Ⅰ（異文化理解）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅱ（グローバル・スタディーズ入門）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅲ（地域文化論：日本） Global Studies Ⅲ: Japanese Arts and Aesthetics	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅳ（地域文化論：韓国）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅴ（文化人類学と宣教）	2				○	○
	グローバル・スタディーズ Ⅵ（国際協力論）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅶ（リーダーシップと組織マネジメント）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅷ（日本語教育）	2				○	
	グローバル・スタディーズ Ⅸ（地域文化論：アフリカ） Global Studies Ⅸ: Introduction to African Culture	2				○	○
	Global Studies Ⅰ: Intercultural Communication	2				○	
	Global Studies Ⅱ: Introduction to Global Studies	2				○	
	Global Studies Ⅳ: TESOL	2				○	
	Global Studies Ⅴ: International Development	2				○	
	Global Studies Ⅵ: Religion and Public Policy	2				○	
	Global Studies Ⅶ: Religion and Society in Japan	2				○	
	Global Studies Ⅷ: Japan Encounters the West	2				○	
	Global Studies Ⅹ: Crucial Issues in Asia	2				○	
統合科目	専門演習	2			○	○	○
	実習A	2			○	○	○
	実習B	4			○	○	○
	実習C	6			○	○	○
	卒業研究 Graduation Thesis or Project	6			○	○	○

カリキュラムマップⅡ（ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーの関係）案

建学の精神	1. 福音主義　2. 超教派神学教育　3. 実践的神学教育　4. 世界宣教
教育目標	東京基督教大学は、プロテスタント福音主義の理念に基づいた世界観と召命観を持ち、教派を超えて教会と社会で、世界宣教の志を持って神と人に仕えるクリスチャンを養成することを教育の目標としています。そのために必要な人格と幅広い教養、神学に関する専門的な知識、主体的に考え行動する力の涵養に努めます。
ディプロマポリシー	東京基督教大学では、所定の期間在学し、本学の「教育目標」に沿って設定された授業科目を履修して、基準となる単位を修得し、卒業判定に合格することが学位授与の要件となっています。学生のために準備された学びには、講義科目のほか、演習や実習、卒業研究等の科目に加え、寮教育や卒業チャペルでのスピーチが含まれます。 以下の基準を満たしている者に学位が授与されます。 1. プロテスタント福音主義の意義を主体的に把握している。 2. 東京基督教大学の超教派の理念を肯定的に理解している。 3. 修得科目にふさわしい神学の知識とその応用力を身につけている。 4. クリスチャンとして人と社会に仕える姿勢および幅広い教養とその実践力を備えている。 5. 神と教会に仕える情熱と、そのために必要な知見を備えている。
カリキュラムポリシー	東京基督教大学では、「建学の精神」および「理念とミッション」に基づく「ディプロマポリシー」を達成するために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を提供し、学修成果をどのように評価するのかを、「カリキュラムポリシー」として以下のように定めています。この「カリキュラムポリシー」を通して、福音的な聖書理解と幅広い神学的知識、さらには情熱を持って神と人に仕えるための実践力を身につけたクリスチャンを育成することを目指します。

カリキュラムポリシー			DP1 プロテスタント福音主義の意義把握	DP2 超教派理念の肯定的な理解	DP3 神学の知識と応用力	DP4 人と社会に仕える姿勢,教養,実践力	DP5 神と教会に仕える情熱と知見
科目の提供	a	プロテスタント福音主義と超教派の理念に基づき、聖書神学、組織神学、歴史神学、実践神学の伝統的で幅広い神学の学びの機会を提供します。	○	○			
	b	人間と社会を理解するために必要な教養教育科目を提供します。		○		○	
	c	クリスチャンとして広く社会で活躍する人を育成するため、日本語と英語の両方で学ぶことのできるカリキュラムを提供します。				○	
	d	異文化と他者への理解をもって神と人に仕える実践力を身につけたクリスチャンを育成するため、実践神学、グローバル・スタディーズ、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉等の科目群を設けます。	○		○	○	
科目の編成	a	学生の主体的な履修を励ますため、基礎学力の向上から専門的知識の修得までを可能にする科目を、科目番号を用いて体系的にわかりやすく配置します。	○	○	○		
	b	学生が自らの興味や将来の目標に沿った学びを進めることができるように、幅広い神学科目の中から、より明確な将来像と結びついた複数の専攻（履修モデル）と副専攻を提供し、具体的な進路選択を促します。提供される専攻は以下のとおりです。 教会教職、グローバル・スタディーズ、ユース・スタディーズ、キリスト教福祉、神学教養				○	○
	c	科目ごとに授業の目標、内容、教育方法、評価方法等を明記したシラバスを作成して学生に提供します。また「カリキュラムポリシー」を具体化し、可視化して共有するための「カリキュラムマップ」を学生と教職員に提供し、カリキュラムに関する大学全体の共通理解と連携を図ります。			○		
	d	毎学期後に実施される学生による授業評価を用い、より効果的な科目配置や、授業内容の改善を実施します。			○		
学修の方法と評価	a	学生と教員の距離を縮め、より能動的な学修参加を促すため、少人数クラスの編成を基本とし、講義、演習（ゼミ）、実習（インターンシップ）、実技、卒業研究等の多様な学びの機会を提供します。			○	○	○
	b	学生の能動的な学修参加と、他者との協働を促すため、授業の中で小グループ・ディスカッションや学生発表等のアクティブラーニングの諸方法を用いた学修の機会を提供します。			○	○	○
	c	社会と教会に仕える実践力や協働力を身につけたクリスチャンを育成するため、チャペル礼拝出席及び地域教会での礼拝出席を必修とし、さらに寮教育の機会を提供します。				○	○
	d	卒業判定につながる学修成果の評価には、通常の科目成績評価に加え、学生の自己評価や教員との面談を含む複数の他者評価が総合的に用いられます。	○	○		○	○
学修（学習）のサポート	a	担任制を設け、履修相談や進路相談を含めて、細やかに支援します。			○		
	b	上級生と下級生の積極的な交流の機会(入学時オリエンテーション、スプリングリトリート、小グループチャペル等)を設け、学生同士の相互援助を可能にする学習共同体の形成を促します。				○	○
	c	学習に困難さを抱える学生のために、支援制度を設けます。			○		
	d	学生相談室を設け、心身の課題を含めた学生の多様なニーズに応えます。				○	○
初年次の教育	a	初年次の学生には、大学における学びに備えるための基礎的な学力の充実を主眼とする科目や、神学を概観できる科目に加え、大学という学習共同体の一体感や、キリスト教世界観を形成するために必要な実践的な学びの機会を提供します。	○	○	○		○
	b	初年次には、学生が自らの興味や召命感に基づいて、主体的に、そしてワクワク感を持って学習の計画を立てることができるよう、多様な履修モデルの紹介や、教員、上級生との交流の機会(入学時オリエンテーション、スプリングリトリート、小グループチャペル等)が提供されます。			○		○
	c	入学前教育の結果等を用いて支援の必要な学生を把握し、入学直後からサポートを開始します。			○		
	d	初年次からキャリア教育を開始し、具体的な将来像の形成を支援します。				○	

【参考資料⑩：授業時間について】

授業時間

通常の授業は、毎週１コマ(70分×２)、１学期につき10回です。授業によっては１週間に70分を２回もしくは３回、または１週間おきに２コマ行われることがあります。キリスト教福祉学専攻の専門科目は、1コマ135分の授業となります。また、特定の期間内に同一の授業を連続して行なう授業を集中講義といい、集中講義期間中、他の授業は行なわれません。

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限	６時限
8:40 ～ 9:50	10:00 ～ 11:10	13:00 ～ 14:10	14:20 ～ 15:30	15:40 ～ 16:50	17:00 ～ 18:10

【参考資料⑪：卒業要件単位数の内訳】

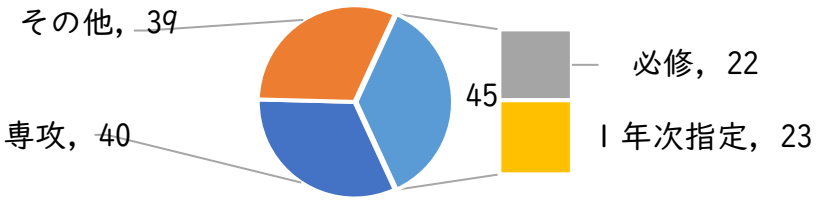
要履修要件単位数　必修科目，Ⅰ指定科目　専攻

科目

	要履修単位数 D【A+B+C】	必修	選択（Ⅰ年次指定）科目				選択（専攻）科目					その他
		コア	コア	一般	語学	計【A】	一般	語学	専門	統合	計【B】	計【C】
Ⅰ年入学(日)	124 以上	22	8	6	9	45	—	—	—	—	40	39 以上
Ⅰ年入学(英)			8	4	12	46						38 以上
2 年次編入	94 以上		0			22	—	—	—	—		32 以上
3 年次編入	64 以上		0			22	—	—	—	—		2 以上

Ⅰ年次入学（在学 4 年間=12 学期）

単位数＝124



種類（単位数）			主な科目
Ⅰ.必修	①	TCU コア （22）	**TCU スタンダード、キリストと世界Ⅰ-Ⅲ(神学・新約・旧約)、霊的形成、CLFⅠ-2** TCU Standard, Christ and the World Ⅰ-Ⅲ, Spiritual Development, **CLFⅠ-2**
2 選択	②	Ⅰ年次指定(23)	基礎演習、情報リテラシー、キャリア教育、Total English Ⅰ-3、CLF3-4 Academic Research and Writing, EJLC**Ⅰ-3**, Global Studies Ⅰ
	③④	専攻（40）	各専攻が指定する**日本語・英語トラック科目**（一般、語学、専門、TCU 統合）
	⑤	その他 （39）	個人が自由選択する科目(TCU **日本語・英語トラック**提供科目、他大学等での修得) 体系的履修：副専攻科目（16 単位）、科目区分（一般、語学、聖書学）毎に集中

【参考資料⑫：学年別履修モデル】

履修モデル(4月入学)1年次入学生共通

1年次(共通)

通年:4単位(CLF4単位)

必修科目
1年次指定科目
授業外学習時間枠(5科目に対応して⑩枠分)

春学期

履修ベース(1年次指定含む):5科目(10単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)		TE 1ーA or B ①	❹	❻	TE 1ーA or B ③		
2 (10:00-11:10)		TE 1ーA or B ②			TE 1ーA or B ④		CLF1(教会実習)①
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF1(チャペル①)	CLF1(チャペル②)	CLF1(チャペル③)	CLF1(チャペル④)		
3 (13:00-14:10)	❶		TCUスタンダード ①	基礎演習 ①	情報リテラシー①		
4 (14:20-15:30)			TCUスタンダード ②	基礎演習 ②	情報リテラシー②		
5 (15:40-16:50)	❷	❸	❺	❼	❾		
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)				❽	❿		
8 (20:40-21:50)							

秋学期

履修ベース(1年次指定含む):5科目(10単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)		TE 2ーA or B ①			TE 2ーA or B ③		
2 (10:00-11:10)		TE 2ーA or B ②			TE 2ーA or B ④		CLF1(教会実習)②
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF1(チャペル⑤)	CLF1(チャペル⑥)	CLF1(チャペル⑦)	CLF1(チャペル⑧)		
3 (13:00-14:10)		キリストと世界Ⅰ①	TCUスタンダード ③	キャリア教育①			
4 (14:20-15:30)		キリストと世界Ⅰ②	TCUスタンダード ④	キャリア教育②			
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

冬学期

履修ベース(1年次指定含む):4科目(7単位)+2科目(4単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)				霊的形成 ①			
2 (10:00-11:10)				霊的形成 ②	TE 3ーA or B ①		CLF1(教会実習)③
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF1(チャペル⑨)	CLF1(チャペル⑩)	CLF1(チャペル⑪)	CLF1(チャペル⑫)		
3 (13:00-14:10)		キリストと世界Ⅱ①	TCUスタンダード ⑤	選択科目A ①	選択科目B ①		
4 (14:20-15:30)		キリストと世界Ⅱ②	TCUスタンダード ⑥	選択科目A ②	選択科目B ②		
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

履修モデル(4月入学)1年次入学生共通

2年次

通年:4単位(CLF4単位)

必修科目
1年次指定科目
授業外学習時間枠(6科目に対応して⑫枠分)

春学期

履修ベース(1年次指定含む):6科目(12単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)			❻	❽			
2 (10:00-11:10)							CLF2(教会実習)①
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF2(チャペル①)	CLF2(チャペル②)	CLF2(チャペル③)	CLF2(チャペル④)		
3 (13:00-14:10)	❶	キリストと世界Ⅲ①					
4 (14:20-15:30)		キリストと世界Ⅲ②					
5 (15:40-16:50)	❷	❹	❼	❾	⓫		
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)	❸	❺		❿	⓬		
8 (20:40-21:50)							

秋学期

履修ベース(1年次指定含む):5科目(10単位)+1科目(2単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF2(教会実習)②
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF2(チャペル⑤)	CLF2(チャペル⑥)	CLF2(チャペル⑦)	CLF2(チャペル⑧)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

冬学期

履修ベース(1年次指定含む):4科目(7単位)+2科目(4単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF2(教会実習)③
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20-11:50)		CLF2(チャペル⑨)	CLF2(チャペル⑩)	CLF2(チャペル⑪)	CLF2(チャペル⑫)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

履修モデル(4月入学)1年次入学生共通

3年次

通年:4単位(CLF4単位)

必修科目
1年次指定科目
授業外学習時間枠(6科目に対応して⓬枠分)

春学期

履修ベース(1年次指定含む):6科目(12単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)			❻	❽			
2 (10:00-11:10)							CLF3(教会実習)①
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF3(チャペル①)	CLF3(チャペル②)	CLF3(チャペル③)	CLF3(チャペル④)		
3 (13:00-14:10)	❶						
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)	❷	❹	❼	❾	⓫		
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)	❸	❺		❿	⓬		
8 (20:40-21:50)							

秋学期

履修ベース(1年次指定含む):5科目(10単位)+1科目(2単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF3(教会実習)②
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF3(チャペル⑤)	CLF3(チャペル⑥)	CLF3(チャペル⑦)	CLF3(チャペル⑧)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

冬学期

履修ベース(1年次指定含む):4科目(7単位)+2科目(4単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF3(教会実習)③
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF3(チャペル⑨)	CLF3(チャペル⑩)	CLF3(チャペル⑪)	CLF3(チャペル⑫)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

履修モデル(4月入学)1年次入学生共通

4年次

通年:4単位(CLF4単位)

必修科目
1年次指定科目
授業外学習時間枠(6科目に対応して⓬枠分)

春学期

履修ベース(1年次指定含む):6科目(12単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)			❻	❽			
2 (10:00-11:10)							CLF4(教会実習)①
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF4(チャペル①)	CLF4(チャペル②)	CLF4(チャペル③)	CLF4(チャペル④)		
3 (13:00-14:10)	❶						
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)	❷	❹	❼	❾	⓫		
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)	❸	❺		❿	⓬		
8 (20:40-21:50)							

秋学期

履修ベース(1年次指定含む):5科目(10単位)+1科目(2単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF4(教会実習)②
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF4(チャペル⑤)	CLF4(チャペル⑥)	CLF4(チャペル⑦)	CLF4(チャペル⑧)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

冬学期

履修ベース(1年次指定含む):4科目(7単位)+2科目(4単位)

	月	火	水	木	金	土	日
0 (7:20-8:30)							
1 (8:40-9:50)							
2 (10:00-11:10)							CLF4(教会実習)③
ﾁｬﾍﾟﾙ (11:20:11:50)		CLF4(チャペル⑨)	CLF4(チャペル⑩)	CLF4(チャペル⑪)	CLF4(チャペル⑫)		
3 (13:00-14:10)							
4 (14:20-15:30)							
5 (15:40-16:50)							
6 (17:00-18:10)							
7 (19:20-20:30)							
8 (20:40-21:50)							

【参考資料⑬：予定時間割】

＜春学期＞

	月	火	水	木	金
1・2	JERL 3 ｼｮｰﾄ 社会科学Ⅱ（女性と社会）岩田 2	Total English 1A ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Total English 1BC 森 EJLC3 / AJLC3 柳沢 IJLC3 小林 Kanji 3 ｼｮｰﾄ ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 8	EJLC3 柳沢 IJLC3 小林 JERL 3 ｼｮｰﾄ 中国語２（初級）齋藤 実践神学 Ⅳ（礼拝学）大和 ユースミニストリーⅠ（神学と実践）岡村 6	EJLC3 柳沢 IJLC3 小林 韓国語３（中級）徐 ギリシア語講読伊藤 ヘブライ語講読平塚 キリスト教福祉Ⅳ（キリスト教公共福祉論）井上 6	Total English 1A ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Total English 1BC 森 EJLC3 / AJLC3 柳沢 IJLC3 小林 Kanji 3 ｼｮｰﾄ ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 グローバル・スタディーズⅦ（リーダーシップと組織マネジメント）森田 8
3・4	実践神学Ⅶ（牧会カウンセリング）松坂 キリスト教福祉Ⅰ（人間の尊厳と自立）佐々木 2	キリストと世界Ⅲ菊池 Christ and the World Ⅱ ｻｲﾂﾏ 実践神学 Ⅴ（宣教学）篠原 キリスト教福祉Ⅴ（介護福祉）中澤 Practical Theology Ⅶ: Philosophy and Theology of Music ｻｯｸｽ Christian History and Tradition Ⅵ: Japanese Church History 山口 5	TCU スタンダード岩田立山山口 TCU standard ｼｮｰﾄﾊﾞﾋﾞﾘｴ 実践神学Ⅰ（説教学）山口 Practical Theology Ⅰ: Introduction to Christian Ministry in Japan ﾊﾞｰｸﾞ Christian History and Tradition Ⅲ: The Heidelberg Catechism 齋藤 4	基礎演習篠原岩田森 組織神学Ⅱ（救済論・教会論・終末論）齋藤 歴史神学Ⅱ（宗教改革・近現代）須藤 Psychology Ⅰ ﾐｽﾞｷ Psychology Ⅱ ﾐｽﾞｷ 4	情報リテラシー立山 聖書学Ⅰ（旧約通論）菊池 聖書学 Ⅳ（預言書・聖文書）木内 Biblical Studies Ⅰ: Old Testament Survey ｼｮｰﾄ Biblical Studies Ⅳ: Topics in Biblical Theology 山口 4
5・6	人文Ⅱ（西洋思想）岩田 人文Ⅳ（キリスト教倫理）岩田 Global Studies Ⅳ: TESOL ﾏﾄﾞﾛｾﾞ Global Studies Ⅹ: Crucial Issues in Asia ｶﾞｽﾀﾌｿﾝ 2	スポーツⅠ朴 専門演習 2		キリスト教福祉Ⅱ（人間関係とコミュニケーション）中澤 菅野 Great Books Ⅰ: Western Philosophy ｻｲﾂﾏ 2	教会音楽Ⅳ（クワイア）稲垣 Great Books Ⅴ: 19th & 20th Century Novels ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Great Books Ⅵ: Social Sciences 森田 2

※＿＿　隔年科目

6　　15　　10　　12　　14　　合計57

＜秋学期＞

	月	火	水	木	金
1・2	JERL 1 ｼｮｰﾄ 1	Total English 2A ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Total English 2BC 森 EJLC1 / AJLC1 柳沢 IJLC1 小林 Kanji 1 ｼｮｰﾄ ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 グローバル・スタディーズⅤ(文化人類学と宣教) 篠原 8	EJLC1 柳沢 IJLC1 小林 JERL 1 ｼｮｰﾄ 組織神学Ⅰ（神論・人間論・キリスト論）齋藤 4	EJLC1 柳沢 IJLC1 小林 韓国語1 （基礎） 徐 ギリシア語講読伊藤 ヘブライ語講読平塚 人文Ⅲ（東洋思想）大和 キリスト教福祉Ⅶ(生活支援技術) 菅野 7	Total English 2A ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Total English 2BC 森 EJLC1 / AJLC1 柳沢 IJLC1 小林 Kanji 1 ｼｮｰﾄ ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 7
3・4	教会音楽Ⅰ(ミュージックミニストリー)佐佐木 実践神学Ⅱ(メッセージの方法と実践)菊池大嶋 キリスト教福祉Ⅲ(社会福祉論) 井上 グローバル・スタディーズⅡ(グローバル・スタディーズ入門)森田 Practical Theology Ⅵ : Christian Apologetics: Defending Faith with Reason ｻｲﾂﾏ Christian History and Tradition Ⅰ: Ancient and Medieval Church History ｻｲﾂﾏ 5	キリストと世界Ⅰ岡村 Christ and the World Ⅲｼｮｰﾄ キリスト教教育Ⅰ(神学と理念) 徐 Practical Theology Ⅱ: Missiology 篠原 3．5	TCU スタンダード岩田立山山口 TCU standard ｼｮｰﾄﾊﾞﾋﾞﾘｴ Pre-EISA （海外英語研修準備)森 実践神学 Ⅵ(牧会学) 大和井上 グローバル・スタディーズⅧ（日本語教育）柳沢 グローバル・スタディーズⅨ(地域文化論：アフリカ） Global Studies Ⅸ : Introduction to African Culture 森田 ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Biblical Studies Ⅱ： New Testament Survey 伊藤 5．5	キャリア教育杉谷 歴史神学Ⅰ（古代・中世）須藤 Academic Research and Writing ｻｲﾂﾏ Christian History and Tradition Ⅳ: Science and Religion ｸﾏﾗｼﾝﾊﾑ Christian History and Tradition Ⅴ: Systematic Theology ｸﾏﾗｼﾝﾊﾑ 4	社会科学Ⅲ （心理学Ⅰ） 岡村徐 Global Studies Ⅰ: Intercultural Communication 篠原 聖書学Ⅱ（福音書）伊藤 歴史神学Ⅵ(日本キリスト教通史) 山口 Practical Theology Ⅲ : Public Speaking: Theory and Practice ﾊﾞｯｸﾎﾙﾂ 4．5
5・6	Global Studies Ⅴ: International Development 森田 Global Studies Ⅷ: Japan Encounters the West ｼｮｰﾄ 1	スポーツⅡ朴 専門演習 2		グローバル・スタディーズⅠ （異文化理解）篠原 キリスト教福祉Ⅵ(こころとからだのしくみ) 菅野 Great Books Ⅱ : Japanese Literature ｼｮｰﾄ 3	教会音楽Ⅳ （クワイア） 稲垣 Great Books Ⅶ : Natural Sciences ｻｲﾂﾏ 1．5
	7	13．5	9．5	14	13

合計57

＜冬学期＞

	月	火	水	木	金
1・2	JERL 2 ｼｮｰﾄ 社会科学Ⅰ（保育学）川島 2	EJLC2 / AJLC2 柳沢 IJLC2 小林 Kanji 2 ｼｮｰﾄ 人文Ⅰ（文学）堀 ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 グローバル・スタディーズⅥ（国際協力論）森田 6．5	EJLC2 柳沢 IJLC2 小林 JERL 2 ｼｮｰﾄ 中国語１（基礎と台湾文化入門）齋藤 人文Ⅴ（キリスト教哲学）稲垣 ユース・ミニストリーⅡ（思春期の理解）岡村 6	霊的形成大和齋藤 EJLC2 柳沢 IJLC2 小林 韓国語２（初級）徐 キリスト教福祉Ⅸ（障がいの理解）井上ﾏｸﾄﾞｪﾙ 5	Total English 3A ﾊﾞﾋﾞﾘｴ Total English 3BC 森 EJLC2 / AJLC2 柳沢 IJLC2 小林 Kanji 2 ｼｮｰﾄ ギリシア語須藤 ヘブライ語公文 7
3・4	実践神学Ⅲ（説教演習）青木 キリスト教福祉Ⅷ（介護過程）中澤 グローバル・スタディーズⅢ（地域文化論：日本）Global Studies Ⅲ：Japanese Arts and Aesthetics 大和辻中 Practical Theology Ⅳ：Christian Ethics ｻｲﾂﾏ Practical Theology Ⅴ：Christian Education ｻｲﾂﾏ 4	キリストと世界Ⅱ伊藤 Christ and the World Ⅰ ｼｮｰﾄ 歴史神学Ⅴ（信条学）朝岡 キリスト教教育Ⅱ（方法と実践）徐 4	TCU スタンダード岩田立山山口 TCU standard ｼｮｰﾄﾊﾞﾋﾞﾘｴ 歴史神学Ⅲ（旧約聖書史/考古学）菊池 歴史神学Ⅳ（第二神殿時代史/考古学）菊池 Global Studies Ⅵ：Religion and Public Policy 長下部 Global Studies Ⅶ：Religion and Society in Japan 長下部 4	社会科学Ⅴ（平和学）篠原他 社会科学Ⅵ（言語学）柳沢 教会音楽Ⅱ（教会音楽の歴史）菊池宇内 教会音楽Ⅲ（教会音楽の実際）菊池宇内 グローバル・スタディーズⅣ（地域文化論：韓国）徐 Spiritual Developmen ﾊﾞﾋﾞﾘｴｻｲﾂﾏ 4	社会科学Ⅳ（心理学Ⅱ）岡村徐 聖書学 Ⅴ（書簡）岩上 聖書学Ⅲ（モーセ五書）公文 Survey of Western Philosophy ｻｲﾂﾏ Biblical Studies Ⅲ：Approaches to Biblical Interpretation ｼｮｰﾄ Biblical Studies Ⅴ：Selected Biblical Books ｼｮｰﾄ Christian History and Tradition Ⅱ：The Reformation and Modern Church History ｻｲﾂﾏ 5
5・6	Global Studies Ⅱ：Introduction to Global Studies ｼｮｰﾄﾊﾞﾋﾞﾘｴ 1	専門演習 1		キリスト教福祉Ⅹ（精神保健福祉論）井上 Great Books Ⅲ：Sacred Books of the East ｼｮｰﾄ Great Books Ⅳ：Christian Classics ｻｲﾂﾏ 1．5	教会音楽Ⅳ（クワイア）稲垣 1
	7	11．5	10	10．5	13　合計52

【参考資料⑭：予定実習一覧】

	科目名	科目担当（専攻担当等）		①実習先名称	②所在地	③実習期間	④受入人数	⑤実習内容（100字程度）	⑥実習先との連携体制	⑦成績評価体制及び単位認定方法
1	実習A（福祉）	中澤　（井上、川元）	1	ベイトレヘイム・工房マナ（障害）	印西市小林16038-38/大森2553-8	3年 夏2週間	2	知的障害者作業施設実習における日常生活上の実際を経験するなかで、障害のレベルに応じて求められる援助技術の用い方や関連職種について理解・連携のシステムを学び障害者福祉のあり方を総合的に検討する。	これまでの介護福祉士養成実習施設との連携体制を継承する。	介護福祉士養成カリキュラムの実習Ⅰを援用し、コンパクトにする。実習施設（指導者）、担当教員、実習学生の相互多面評価と所定の報告会の実施により単位認定す
	実習A（福祉）	中澤　（井上、川元）	2	ホッとスペース中原/喜楽希楽サービス・からしだね	川崎市中原区上小田中5-5-6-111/土浦市上高津486-2	3年 夏2週間	2	地域居住系施設及び在宅支援事業所において、訪問介護や通所介護の特性および居宅介護支援事業所・地域包括支援センター等との連携を学ぶことにより地域における施設・事業所の役割を理解する。	これまでの介護福祉士養成実習施設との連携体制を継承する。	介護福祉士養成カリキュラムの実習Ⅰを援用し、コンパクトにする。実習施設（指導者）、担当教員、実習学生の相互多面評価と所定の報告会の実施により単位認定す
	実習A（福祉）	中澤　（井上、川元）	3	はなみずき	八千代市島田台998-4	3年 夏2週間	2	特別養護老人ホームの日常生活において、利用者理解と基本的な援助をしながら、生活ニーズと介護の機能、並びに施設職員の一般的な役割を学ぶとともに、福祉施設で働くことの意義を学ぶ。	これまでの介護福祉士養成実習施設との連携体制を継承する。	介護福祉士養成カリキュラムの実習Ⅰを援用し、コンパクトにする。実習施設（指導者）、担当教員、実習学生の相互多面評価と所定の報告会の実施により単位認定す
	実習A（福祉）	中澤　（井上、川元）	4	片柳コイノニア、ホサナホーム、フレンドシップあさひ、5つのパン、シオン相模原、白浜レスキューネットワークほか等	関東圏（白浜は和歌山）	3年 夏2週間	2	高齢者だけでなく、様々な領域のユニークな実践、教会や教会と連携した事業所などにおいて学生の個性、地域性、ニーズに合わせた包括的宣教（福祉）を体感できる実習。実習先は例示。教職者課程学生にも対応。グローバル実習との連携・協働も考えられる。	各事業所や教会の管理者・リーダーと緊密な連絡体制を取る（遠方で巡回はできなくても、事前事後の顔合わせはする）。	評価体制は同上であるが、実習先の特性に合わせた評価基準を従来の介護福祉士養成カリキュラムの準じつつ、アレンジして作成する。
2	実習A（ユース）	徐　（岡村）	1	hi-b-a（ハイビーエー）	〒299-4314 千葉県長生郡一宮町新地1987-1	春期（1週間）夏期（2週間）冬期（3日間）	5～10名	高校生を対象にしたキャンプで、カウンセラーとして働く。宿泊キャビンにて高校生と寝食を共にし、様々なアクティビティーに取り組む。共に学び、遊びつつ、将来の不安や、人間関係の悩み等に関する相談にものる。	hi-b-a東京基督教大学は提携関係にある。また教員が定期的にキャンプ場を訪問する。	実習計画書、実習報告書、実習報告会でのプレゼンテーション、さらには実習先からの聞き取り調査の結果を総合して評価する。
3	EISA（海外英語研修）	森恵子　（根岸）	1	CPILS（Center for Premier International Langauge Studies）	Benedicto Bldg., M.J. Cuenco Av., Cebu City, Philippines 6000	7月上旬―8月上旬	5～10名（学部2年次の希望者）	CPILS（語学学校）における寮生活および月－金の集中的な英語学習により、英語によるアウトプット能力を伸ばし、意思疎通の道具として英語を使いこなす自信をつける。またセブの社会と文化に触れる機会を通し、異文化を知り適応することへの意識を高める。	セブ空港到着から帰国日まで、CPILSの管理指導のもと実習を行う。緊急時はTCUとCPILS日本事務所（葛西）が連携して対応する。	CPILS授業参加、クラス成績、毎週末のオンラインレポート、および帰国後の英語プレゼンテーション
4	実習A（グローバル）	森田　（ショート）	1	ハンガーゼロ、ワールドビジョン、OMF、OM、ウィクリフ等の宣教団体やNGO	諸団体による海外での活動現場	10日（およそ2週間程度）	一団体当たり1-3名	日本国内外で活動を展開する宣教団体やNGO等を視察・訪問し、現場の状況に直接触れ、当該国の文化・社会状況について体験的に学ぶ。	受け入れ団体と共に危機管理体制を整える。担当教員との相談の上で、引率スタッフが監督・指導する。	引率スタッフによる評価、事前事後のレポート提出およびプレゼンテーション
5	Internship A：Global Studies	ショート　（森田）	1	Mission Agency, Christian NGO, Other (Hunger Zero, World Vision, OMF, OM, Wycliff, Other)	Field office or project site	Around 10 to 15 days	1 to 3 TCU students per organization	This internship offers students an opportunity to learn about cultural and social issues in other parts of the world by visiting, observing, and serving at mission agencies and NGOs in Japan and/or abroad.	Prepare crisis management response with receiving organization. Team leader will supervise interns following	Evaluation by team leader. Report and presentation before and after internship.
6	実習B（グローバル）	篠原　（森田、ショート、根岸）	1	Food for the Hungry Philippines（ハンガーゼロ：日本国際飢餓対策機構）	フィリピン（マニラとビコール地域）	1か月程度（20日以上）	2～6名	海外で活動を展開する宣教団体やNGO等を視察・訪問し、現場の状況に直接触れることで体験型学習を実施する。	FHフィリピン事務所およびハンガーゼロの引率スタッフと連携して、現地滞在時の危機管理を行う。最初の1週間を担当教員が引率する。	現地スタッフによる評価、事前事後のレポートおよびプレゼンテーション
7	実習C（グローバル）	徐　（森田、ショート、根岸）	1	延世大学言語研究教育院　韓国語学堂	〒 03722　50　YONSEI-RO, SEODAEMUN-GU, SEOUL, KOREA	3か月	1名以上	韓国語学堂の正規課程で10週間（200時間）の学習。ソウルでの下宿生活を始め、韓国語の礼拝(教会)体験など、様々な韓国文化体験をし、現地調査による研究を行う。	延世大学韓国語学堂と、ホームステイ先と連携し、滞在時の危機管理を行う。最初の1週間を担当教員が引率する。	語学堂での成績、事前事後のレポートおよびプレゼンテーション
8	実習A（キャリアインターンシップ）	杉谷　（キャリア支援室）	1	止揚学園	滋賀県東近江市佐野町885	約２週間	２～３名	知能に重い障害のある方々とともに衣食住をともにし、「目に見えるものより目に見えないものを大切にする」ことを経験して命の大切さを学ぶ。進路の選択肢のひとつとしてこのような施設で働くことも視野に入れられるように考えを広げる。	受け入れ先と危機管理体制を整え、必要であれば実習期間中に担当教員が訪問する。	実習レポートと授業評価レポートを提出する。
	実習A（キャリアインターンシップ）	杉谷　（キャリア支援室）	2	印西しおん幼稚園	千葉県印西市松崎517	約２週間	２～３名	普段接することのない未就学児 の教育を学ぶ。本学では資格取得はできないが、自主学習の取り組みや進路選択の幅を広げるきっかけとなる。	受け入れ先と危機管理体制を整える。実習期間中担当職員と連絡をとりあう。	実習レポートと授業評価レポートを提出する。
9	Internship A：Career Internship	ショート　（キャリア支援室）	1	Mission Agency, Christian NGO, Other (Hunger Zero, World Vision, OMF, OM, Wycliff, Other)	Field office or project site	Around 10 to 15 days	1 to 3 TCU students per organization	This internship offers students an opportunity to learn about cultural and social issues in other parts of the world by visiting, observing, and serving at mission agencies and NGOs in Japan and/or abroad.	Prepare crisis management response with receiving organization. Team leader will supervise interns following	Evaluation by team leader. Report and presentation before and after internship.

【参考資料⑮：既修得単位の読替表】

科目区分	卒業要件	包括 単位認定	個別 単位認定	合計	編入後に 必要な卒 業単位数	備考
コア科目	22	0	0	0	22	履修科目：TCU スタンダード、キリストと世界Ⅰ-Ⅲ（神学・新約・旧約）、霊的形成、CLFⅠ-２
専攻指定科目	40	0	0	0	40	
選択科目	62	60	0	60	2	
合計	124 以上	60	0	60	64	

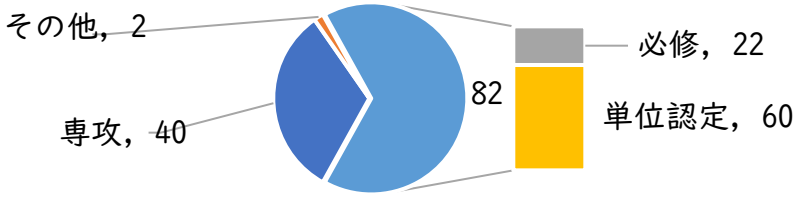
※１．包括単位認定で**計 60 単位**が認定されます。

※２．編入後卒業までに必要な単位数は、**64 単位**となります。

【参考資料⑯：３年次編入生の履修単位数】

3 年次編入（在学 2 年間=6 学期）

単位数＝124



種類（単位数）			主な科目
Ⅰ.必修	①	**TCU コア　(22)**	**TCU スタンダード、キリストと世界Ⅰ-Ⅲ(神学・新約・旧約)、霊的形成、CLF Ⅰ-2** TCU Standard, Christ and the World I-Ⅲ, Spiritual Development, **CLF Ⅰ-2**
2 選択	② ③ ④ ⑤	単位認定（60）	入学前に修得した科目を単位認定　最大６０単位まで
		専攻（40）	各専攻が指定する**日本語・英語トラック科目**（一般、語学、専門、TCU 統合）
		その他　　(2)	個人が自由選択する科目(TCU **日本語・英語トラック**提供科目、他大学等での修得) 体系的履修：副専攻科目（16 単位）、科目区分（一般、語学、聖書学）毎に集中

【参考資料⑰：「キャリア教育」シラバス】

LCE100 キャリア教育

＜授業の内容とねらい＞

クリスチャンとして社会の一員として積極的に生きていくことは当然のことであるが、クリスチャンは社会で働くことを具体的に視野に入れてどれほど大学生生活を真剣に考えているのであろう？このコースを履修する学生は、自分自身の適性を理解しながらクリスチャンとしての職業観を具体的に考察し、また卒業後の進路も視野に入れながら 4 年間の大学生活とキャリアプランを考える。

具体的には、（1）職業観の考察に関しては聖書やキリスト教書物を通して学びをする。（2）職業を具体的に考えることは、クリスチャンとして様々な職業について活躍されているプロフェショナルズをゲストスピーカーとしてお迎えして話を聞き様々な分野、角度から“働くこと”を学ぶ。（3）卒業後の進路やキャリアプランに関しては、学生自身がもつ職業適性をキャリアディベロプメントのツールを用いて自己分析することや計画することを試みる。これらを主要な三本柱としてこのコースの学びを進めていく。

＜授業テーマと内容＞

第 1 週 コース概要、・適性検査
第 2 週 「働くこととは？」・社会理解
第 3 週 自己理解
第 4 週 職業理解
第 5 週 学業から職業へ
第 6 週 多様な働き方1
第 7 週 多様な働き方2
第 8 週 多様な働き方3
第 9 週 多様な働き方4
第 10 週 インターンシップ説明、コースまとめ「働くこととは？」 問題提起および総括討論は担当者が行う。それ以外の各回については、外部講師を中心にオムニバス形式で講義を行う。各回では、約1時間半の講義とそれに続く質疑応答の後、リアクションペーパーの記入を受講者全員に求める。

＜到達目標＞

① 自分の持っているキャリアに関する適性を知る
② 卒業後を見据え、大学在学中に持つべき指針の検討をはじめる
③ 様々な現場で働くクリスチャンの現実を知る
④ 「働くこと」（職業観）の現実的かつ聖書的な基礎を概念と実践の両面から築く

＜(*)教科書・参考書＞

＊ 「キリスト者の自由」マルチン・ルター著
R-Cap ワークシート・適性検査の解説と分析結果」（リアセック株式会社）3000 円
後日、適性検査費 3,000 円を口座から引き落としを致します。

＜成績評価の方法と基準＞

＜準備学習等に必要な時間＞

リーディング（1時間）

レポート（1時間）

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

＜その他履修上の注意点＞

事前に適性検査を受けること。日時未定、後日アナウンスします。

場所：コンピュータールーム

この検査を受けないと授業を受けられません。（必修単位を取れません）全員必ず受検すること。

【参考資料⑱：「キャリアインターンシップ」 シラバス】

PIN200 実習A（キャリアインターンシップ）

＜授業の内容とねらい＞

東京基督教大学では、正統的なキリスト教神学の基礎知識の学習を基盤に、各専攻の専門性を修め、仕える心（特に社会的弱者）を持ち、国内学（特にアジア諸国）の社会発展に貢献できる人材を社会に送り出すべくカリキュラムが組まれている。科目・インターンシップでは、キャンパスで学んだことを学外での多様な実践的活動を通して学びを深めることを期待している。実践的活動を通して自分の能力や適性の強点、弱点を知り、卒業後の進路に対して現実的計画を立てられるようになることも期待される。

＜授業テーマと内容＞

次のうち 1 つを選択し、実働 8 時間 10 日以上を行うこととする。

1．実践神学実習をさらに深める

毎週行っている教会実習について、将来牧会・伝道の働きに就くことを目指し、さらに力を入れて行う場合は、クリスチャンライフ・フォーメーションの単位に加えて、学外実習の単位も認定します。詳細は教務課もしくは神学科長にご相談ください。

2．企業インターンシップ

将来、企業への就職を希望する者を対象に、就労体験実習を行うものです。実際に企業で働くことによって職業観を醸成し、今後のキャリア形成を考えます。インターンシップ先の検索・登録・実施はハイパーキャンパスシステム https://www.campusweb.jp/login1.php を利用する。ログイン ID とパスワードは学生課に問い合わせること。

③福祉施設におけるインターンシップ（対象：キリスト教福祉専攻以外の 2 年生以上）

本学が提携する近隣およびキリスト教系福祉施設等において福祉の現場を肌で感じるための就労体験実習です。社会福祉主事任用資格の取得を目指す者の必須要件です。実習先は学生課に問い合わせること。また、実習先を自己開拓する場合は事前に相談すること。

＜到達目標＞

① 実践を通して自分の能力、適性を確認する

② 実践を通して自分の能力や適性の足らないところを知る

③ “現場”の楽しさを体験する

④ “現場”の厳しさを知る

＜(*)教科書・参考書＞

＜成績評価の方法と基準＞

2．、3．においては、インターン終了後に実習日誌のコピー、2000 字以上のレポート、インターンシップ科目の評価を提出する。

＜準備学習等に必要な時間＞

＜課題（試験やレポート）に対するフィードバック＞

＜その他履修上の注意点＞

実習先を自己開拓する場合は事前に相談すること。